

会計管理 A 4単位(1学期)  
会計管理 B 4単位(1学期)

教授 太田 康広  
准教授 村上 裕太郎

授業科目の内容:

ねらい:経営の計数管理に不可欠な会計情報について、その基礎知識および分析能力を養う。このコースの約半分は企業会計のしくみを理解することにあて、約半分はこの分野の後続の諸科目で扱われるテーマの中から基礎的・一般的な部分を取り上げて、経営管理プロセスと会計情報との関係について見通しを得させる。

主な内容:会計情報の役立ちとその限界、企業資本計算の構造、損益計算書と貸借対照表、複式簿記の仕組み、株式会社の財務諸表、棚卸資産会計、固定資産と減価償却、財務比率分析、連結会計の仕組み、基礎的な原価会計、利益と資金の計画および分析、意思決定のためのコスト・利益分析、業績管理のための会計、…など。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

「中間試験+期末試験の簿記問題+前半の授業参加点」50%、「期末試験の経営分析問題+期末レポート+後半の授業参加点」50%

テキスト(教科書):

山根 節著『新版ビジネス・アカウンティング』中央経済社

参考書:

山根 節著『山根教授のアバウトだけどリアルな会計ゼミ』中央経済社

経営科学 A 4単位(1学期)  
経営科学 B 4単位(1学期)

教授 林 高樹  
准教授 安道 知寛

授業科目の内容:

本科目では情報と論理的思考を駆使して経営課題の解決や意思決定の質を高める方法について学ぶ。具体的には、(i)意思決定を行う上でのベースとなる数値計算や定量分析の具体的な方法論、および合理的な意思決定の方法論を学習する講義や演習と、(ii)(i)の方法論を実際の意思決定へ応用するケース授業から構成される。本科目の前半においては、デシジョン・ツリー、確率シミュレーション、線形計画法などのオペレーションズ・リサーチや決定分析の方法論を用いた意思決定について学習する。PCの活用方法についても学ぶ。後半では、経済学・およびその周辺領域の概念・方法論に基づいた意思決定について検討する。自社においてベストの選択が、他者の選択によって左右される状況の意思決定も検討する。さらに、現実の複雑な状況における意思決定を問う総合演習が行われる。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

授業への貢献度、個人・グループ課題、定期試験

組織マネジメント A 4単位(1学期)  
組織マネジメント B 4単位(1学期)

組織マネジメント(基礎科目)

専任講師 大藪 毅  
教授 清水 勝彦

授業科目の内容:

組織マネジメント科目の前半(清水)は組織をマクロな視点から捉えて分析する。全体を通して組織と環境とのダイナミックなかかわりを中心的テーマとする。組織構造とデザイン、組織変革、更にはビジネスモデル、グローバル化、リーダーシップといった様々なコンテキストにおいて、環境と戦略と組織のマネジメントのありかたを考察していきたい。

後半(大藪)は、前半と対照的に組織内部のトピックを取り上げる。特に労働市場の変化によって注目されているキャリア形成と、企業内部の人材マネジメント、この2つをあつかう。どちらも近年大きく見直しが起こっている分野であるが、人をめぐって「変わるもの」と「変わらないもの」について考察したい。

授業の計画:

セッション1, 2 4月7日(月)

テーマ:グループダイナミクスと討議(合同授業)

教材:ケース「12人の怒れる男」 その他資料

セッション3 4月16日(水)

テーマ:企業理念と組織

教材:ケース「桜十字A」DHBR「リーダーが陥る行動の罠」

セッション4 4月17日(木)

テーマ:組織構造と組織デザイン—事業部制—

教材:ケース「松下電器(ME)1987」;DHBR「戦略本社の共創リーダーシップ」

教科書(沼上):第1章

セッション5 4月22日(火)

テーマ:組織構造と組織デザイン—マトリックス構造—

教材:ケース「ABB継電器事業」

教科書(沼上):第2章、第3章

セッション6 4月28日(月)

テーマ:ビジネスモデル

教材:ケース「バンドラレディオ」;DHBR「ビジネスモデルイノベーションの原則」

セッション7 4月30日(水)

テーマ:組織変革と組織体制

教材:ケース「ストーンフィンチ」

教科書:教科書(沼上):第4章

セッション8 5月8日(木)

テーマ:企業の海外進出

教材:「サクラオフィスプロダクツ台湾」

セッション9 5月12日(月)

テーマ:グローバル企業の組織変革

教材:ケース「フィリップスと松下」

セッション10, 11 5月20日(月)

期末テスト(10:00-12:00)、FB(13:00-16:00)

セッション12 5月26日(月) 講師:浅川

テーマ:グローバル・アライアンスの形成

教材:ケース「ルノー日産:グローバル・アライアンスの形成」

セッション13 5月29日(木) 講師:渡辺

テーマ:キャリアについて考える

テスト:PGIplusキャリア発達支援検査

セッション14 6月2日(月) 講師:林

テーマ:ワークモチベーション

※資料については後日配布

セッション15 6月3日(火)

テーマ:初期キャリアの課題

教材:ケース「S建設株式会社—井上倫子」

セッション16 6月5日(木)

テーマ:キャリアの分かれ目と人材マネジメント

教材:ケース「ABCコンサルティング(B)」

セッション17 6月9日(月)

テーマ:転職

教材:「榎本氏の再就職活動」 資料「ライフサイクルの構造」

セッション18 6月12日(木)

テーマ:若手社員の育成

教材:ケース「東京中央銀行」

※本授業は各グループによるプレゼンテーションを行う。要領については授業内に指示。

セッション19・20 6月16日(月)・18日(水)  
テーマ:経営と人材マネジメント  
教材:ケース「A不動産株式会社」  
※本授業は各グループによるプレゼンテーションを行う。要領については授業内に指示。

セッション21 6月19日(木)  
テーマ:人材マネジメント戦略  
教材:ケース「青梅慶友病院と大塚宣夫」

セッション22・23 6月25日(水)・26日(木)  
テーマ:働き方とチームワーク  
教材:ケース「なぜ会社を辞めるのか」、資料「古畑氏の悩み」

セッション24 6月30日(月)  
期末テスト(10:00-12:00)

セッション25 7月7日(月)  
FB(10:00-12:00)  
成績評価方法:  
授業コントリビューション、テスト  
テキスト(教科書):  
『組織戦略の考え方』沼上幹(ちくま新書)  
『長期雇用制組織の研究』大藪毅 中央経済社  
参考書:  
『戦略と実行』(2011年)『実行と責任』(2012年)、いずれも清水勝彦(日経BP社)  
『よくわかる組織論』田尾雅夫編著 ミネルヴァ書房  
担当教員から履修者へのコメント:  
十分な準備と、積極的な授業参加を期待する。

マーケティングA 4単位(1学期)  
マーケティングB 4単位(1学期)

教授 井上 哲浩  
教授 余田 拓郎

授業科目の内容:  
本科目では、マーケティング・ミックスを中心としたマーケティング・マネジメントを学習する。主な内容は次の通りである。  
(1) 序論:マーケティング・コンセプトおよびマーケティング・マネジメントの領域と特徴に関する理解を図る。  
(2) マーケティング環境分析:マーケティング意思決定の前提として、環境要因分析、なかでも消費者の行動分析と需要予測、並びに競争分析と当該企業の経営資源分析などを学ぶ。  
(3) マーケティング各論:企業が利用しうるマーケティング諸手段の分析・検討を行う。  
イ) 製品政策 ロ) 価格政策 ハ) 流通チャネル政策 ニ) プロモーション政策  
(4) マーケティング戦略形成:企業目的の可及的達成を目標に、以上のマーケティング諸手段を、いかに総合的に組み合わせ、環境への創造的な適応を図るかを検討する。  
授業の計画:  
KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。  
成績評価方法:  
クラス貢献点ならびに筆記試験  
テキスト(教科書):  
石井淳蔵、嶋口充輝、栗木契、余田拓郎(2013)『ゼミナール マーケティング入門 第2版』日本経済新聞出版社(ISBN-10: 4532134390)  
担当教員から履修者へのコメント:  
他の基礎科目とともに、ゼネラリスト養成の一翼を担うとともに、マーケティング関連専門科目の導入部分を構成する。

経済・社会・企業A 4単位(2学期)  
経済・社会・企業B 4単位(2学期)

Economy, Society, and Business

教授 姉川 知史  
教授 中村 洋

授業科目の内容:

人は自然、政治、経済、社会、技術、地域、国家、世界等、多様な外部要因の理解が必要になる。企業、政府、その他の主体の経営においても、各人は、それらがどのようなものであるか俯瞰的展望を獲得し、それが人と組織にどのような影響を持つかについて見通しと理解を持ち、さらに外部環境に対して、何をなすべきか、どのように働きかけるかという判断が重要になる。これは経営幹部がもつべき最も重要な資質でもある。本科目では、外的環境として代表的題材を選択し、その学習によって、各人が外的環境の展望、見通し、理解を得て、さらにめざす目的を明確にし、判断能力を養成する。

この科目では次のモジュールに分けて授業を行う。

第1のモジュールは「社会問題」である。ここでの議論には、市場機能と非市場機能の対比、文化的側面、公共性の概念、社会保障(年金・介護・医療)、少子化問題、高齢化と医療などが含まれる。さらに、今年度は震災復興、都市問題、も議論する。

第2は「国際関係と日本の将来」である。これには東アジア、南アジア、中近東、アフリカの国際情勢といった地域問題から、技術と産業まで含む。

第3は「外部環境変化と経営」である。環境問題への注目、規制の変化、企業の社会的責任に対する注目の高まり、技術変革など、企業を取り巻く外部環境は大きく変化している。それらの変化に対する理解を深めるとともに、企業・組織経営のあり方について議論を行う。

第4は「国内経済と国際経済」である。ここでは1980年代までの日本と世界の経済の変遷、とりわけ1990年代以降の日本経済、そして現在の経済、そこでの金融政策、財政政策、構造改革等の問題を検討する。とりわけ、日本経済と国際経済、国際金融との関係を強調する。ここではマクロ経済学的手法を利用する。

授業は上記4つをモジュールとして構成し、それぞれの教員が担当して実施する。

本科目はケース・メソッドを採用する。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

- ① 授業参加 60%
- ② 試験 40%(中間試験、期末試験、その他)

なお、当研究科の選択科目「経済理論I」(1学期)、「経済理論II」(2学期)ならびに「統計学入門」(1学期)で実施される内容は、本科目その他の科目の前提であり、その初歩的理解については試験内容に含まれる。

テキスト(教科書):

[予定]

Pindyck and Rubinfeld, Microeconomics 8th edition, 2012, Prentice Hall  
G.マンキュー『マンキューマクロ経済学、第3版 入門編』2011、東洋経済新報社

担当教員から履修者へのコメント:

本科目は、選択科目「経済理論I」(1学期)、「経済理論II」(2学期)、「統計学入門」(1学期)の基礎的内容を履修していることを前提とする。これらの内容を大学等で未履修の学生は、1年1学期、2学期の早い時期において履修しておくことが必要である。

質問・相談:

オープンオフィス  
授業終了後(姉川)  
授業時昼休み(中村)

e-mailにて相談予約

財務管理 A 4単位(2学期)  
財務管理 B 4単位(2学期)

准教授 小幡 績  
准教授 齋藤 卓爾  
准教授 高橋 大志

授業科目の内容:

ファイナンスと経営財務の基礎を学習する。資産価格評価(アセットプライシング)の基礎を、コース開始前に自習により習得することを前提とする。コースは、主としてケース討論と講義により進める。高橋が、アセット・プライシング、企業価値評価の基礎、資本コスト算定、金融派生商品とリスク管理を担当する。齋藤が、企業価値評価の応用、M&A、企業再生、経営者の資本市場対応などを担当する。小幡は、総合的な経営戦略の手段としての財務戦略や金融市場的な観点を議論する。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

クラスで別途指示する

テキスト(教科書):

久保田敬一, 決定版 コーポレートファイナンス, 東洋経済新報社, 2006.

リチャード・ブリーリー, スチュワート・マイヤーズ, フランクリン・アレン(著), 藤井真理子, 国枝繁樹(訳), コーポレートファイナンス(第8版)(上), 日経BP社, 2007.

参考書:

渡辺章博, 井上光太郎, 佐山展生, M&Aとガバナンス—企業価値最大化のベスト・プラクティス, 中央経済社, 2005.

生産政策 A 4単位(2学期)

生産政策 B 4単位(2学期)

教授 河野 宏和  
教授 坂爪 裕

授業科目の内容:

本コースでは、企業活動において製品やサービスを提供する「生産・供給機能」とそのためのオペレーションに焦点を当て、

- (1) 生産・供給機能が果たすべき役割に関する基本的な理解
- (2) オペレーションに内在する課題を発見・分析・改善する視点
- (3) 「生産・供給機能」分野における主要な経営課題と意思決定問題に関する分析・判断能力

を講義・演習・工場見学・ケース分析を通じて習得する。

本コースでカバーされる主な内容(問題領域)は以下の通りである。

A. 生産管理を中心としたオペレーション・レベルの問題領域

1. 作業管理と設備管理
  2. 生産計画と日程管理
  3. 品質管理
  4. オペレーション・プロセスの分析・改善・設計、など
- B. 生産政策レベルの問題領域
1. 生産システムの改善とその効果
  2. 新製品の導入と生産設備投資
  3. 自動化への対応と情報システムの革新
  4. 営業政策・財務政策と生産部門の役割
  5. トータル・サプライ・プロセスの設計と改善
  6. 改善活動のマネジメント
  7. 生産革新と企業体質
  8. 国際生産政策における諸問題、など

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

担当者毎にクラスにて別途指示

テキスト(教科書):

藤本隆宏(2001)『生産マネジメント入門 I【生産システム編】』日本経済新聞社

総合経営 A 4単位(3学期)

総合経営 B 4単位(3学期)

教授 岡田 正大  
教授 磯辺 剛彦  
教授 小林 喜一郎

授業科目の内容:

本コースでは、企業の経営政策・戦略(BPS: Business Policy and Strategy)上の諸課題について、企業として好業績(Above average return)を達成していくためには何をしなくてはならないのかと言う前提のもと、トップ・マネジメントの視点に立って戦略的な企業経営のロジックを学習し、状況分析に基づいて具体的な戦略立案並びに実行を指揮するための訓練を行うことにその狙いがある。以上をカバーするケースの内容として、

1) コーポレートレベル戦略および事業レベル戦略

- ・企業の経営理念と経営者の役割
- ・事業ミッションとドメイン定義
- ・企業外部環境と内部資源分析(含むSWOT)
- ・グローバル戦略
- ・コア・コンピタンスと経営資源蓄積・調達・育成
- ・資源配分戦略
- ・組織と戦略の整合性
- ・戦略策定における定量的分析多角化の類型と方法論
- ・産業組織論的分析視覚に立った業界構造分析の基本(5つの競争要因分析、国の競争優位)
- ・業界構造に対応した基本戦略(差別化、コスト、フォーカス他)
- ・業界の収益性を規定する要因の分析(参入・撤退障壁、移動障壁と戦略グループ)
- ・事業レベルでの競争戦略
- ・戦略の実行上の課題(Implementation)等

2) イシューオリエンテッドなテーマ

- ・ネット経済下での競争戦略
- ・ICTの産業へのインパクトとバリューチェーンへの影響
- ・知的所有権問題
- ・コーポレートガバナンス
- ・BOP攻略等

3) 対象となる組織形態

- ・大企業とベンチャービジネス
- ・NPO・NGO
- ・製造業、サービス業

を予定している。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

クラス貢献度40%、2度の筆記テスト60%(出席は規定通り)

テキスト(教科書):

「競争の戦略」(マイケル・ポーター著)土岐他訳、ダイヤモンド社

参考書:

その都度資料配布

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: グローバル戦略経営論(磯辺)・競争戦略論(小林)・戦略コンサルティング(小林・岡田)・企業戦略における技術と社会的インパクト(岡田: IP)・経営戦略におけるアントルプレナーシップ(須賀: IP)

アジアビジネス・フィールドスタディ 2単位(1学期)

准教授 小幡 績  
特別招聘教授 張 秋華

授業科目の内容:

本コースは、KBS、中国のNo.1 ビジネススクールである清華大学と韓国のNo.1 ビジネススクールであるKAISTの3校の共同開催コースであり、2012年度からスタートした科目である。日中韓3カ国のMBA生が、それぞれの国の特定の産業を比較分析した上で、3カ国のうちの1国についてその産業に属する代表企業、特色のある企業等を訪問し、フィールドスタディを行う。その産業や訪問企業のアジアおよびグローバル市場における成功に向けたキーファクターの検討、戦略策定を行うことを目的とする。

本年は、中国を訪問し、分析を行う。具体的な訪問企業は今後確定する。訪問日程は7月7日から13日(昨年実績。今年度は同時期だが

確定は後日)。この期間が中国滞在期間となり、企業訪問、中国、韓国との学生、教員とのディスカッションを集中的に行う。これに追加して、6月、7月、8月前半はかなりまとまった活動を行う。

**授業の計画:**

KBS在生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

**成績評価方法:**

企業分析における中国、韓国との学生とのチームプレゼンテーション、および作成ケースによる。

**テキスト(教科書):**

教科書、参考書はない。授業内で適宜配布する。

**技術戦略の経済学 2単位(1学期)**

Economics of Technology Management

教授 姉川 知史  
特任講師(非常勤) 都丸 孝之

**授業科目の内容:**

次の目的で科目を実施する。

第1に、経営学系学生、理学・工学・医療系学生が、技術マネジメントに関する「俯瞰的展望」を得ることを目的とする。手法としては、経済学とマネジメントを技術に応用することを強調する。

第2に、大企業、中小企業、大学等における技術マネジメントの実例を通して、問題を整理し、実際に直面する課題を明らかにする。

教育手法としては、ケース・メソッド、講義メソッド、輪読、プロジェクトの4つを併用する。さらに施設見学、見本市見学、外部専門家講演などを付加する。

本科目は次の視点を強調する。

1. 技術・イノベーション・マネジメント

技術・イノベーションのマネジメントはどうあるべきか。

そのマネジメント手法の内容は何か。その限界は何か。

経営における技術・イノベーションの役割はいかなるものか。

2. 技術の社会的展望

技術・イノベーションは経済、社会、企業、政治とどう関係するか。

日本経済の過去15年の停滞と、技術・イノベーションはどのように関係するであろうか。

グローバル化と技術・イノベーションの関係はいかなるものか。

経済成長、環境、安全、食料、エネルギー、医療等における国際的課題はいかなるものか。

3. 技術と経営教育

技術・イノベーションのマネジメント教育はどうあるべきか。

日本の技術者に対するマネジメント教育の課題は何か。

技術・イノベーションとマネジメントとを統合する教育のあり方はいかにあるべきか。

4. 震災後の社会像と技術の事例

通常の科目内容に加え、東日本大震災が提起した社会と技術のマネジメントを題材も扱う。震災後の社会と技術のマネジメントとしては、下記の中から重要な課題を選択する。

a. 地震理論、津波理論

b. 巨大自然災害と防災・リスク管理、危機管理

c. エネルギー、環境、原子力発電

d. 原子力発電の原理と事故

e. 放射能による汚染と除染

f. 農水産物と食品の安全

g. 地震災害と救急医療、地域医療

h. 技術の限界、技術者の倫理

i. 日本の技術の課題—技術者の倫理と精神

**授業の計画:**

本システムは学年途中の修正ができないため、最新版を参照してください。

1. KBS在生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

2. また、KBSならびに他研究科の学生は講師のHPを参照ください。  
<http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>KBS在生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

日程は原則、月曜5、6時限

1 4月14日 5時限 オリエンテーション 技術と教育 オルテガ・イ・ガセット「技術とは何か」(詳細な教材リストは授業HP参照)

2 4月14日 6時限 MBA教育と技術 ミンツバーク『MBAが会社を滅ぼす』「日本のブランド・デザインを策定する融合型実践教育」

3 4月21日 5時限 技術のマネジメント:イノベーションとは何か ドラッカー, クリステンセン 各種資料

4 4月21日 6時限 "大企業における新規事業開発の課題～富士ゼロックスの事例～" 各種資料

5 5月12日 5時限 中小企業と技術 各種資料

6 5月12日 6時限 モジュール型技術のマネジメント 各種資料

7 5月19日 5時限 "モノ作り中小企業課題～大田区の事例～" 各種資料

8 5月19日 6時限 "製品企画と事業展開～環境ビジネス～" 各種資料

9 6月2日 5時限 技術各論—I Tと著作権 資料 「グーグル秘録」「グーグルの広告ビジネス」

10 6月2日 6時限 "デザイン思考×システム思考①～Appleの事例～" 各種資料

11 6月9日 5時限 "デザイン思考×システム思考②～Appleの事例～" 各種資料

12 6月9日 6時限 ものづくり幻想1 事例教材 「トヨタリコール危機」

13 6月16日 5時限 ものづくり幻想2 事例教材 「日本エレクトロニクス産業の凋落」

14 6月16日 6時限 技術と倫理 各種資料

15 6月23日 5時限 "ビジネス創出論①～アイディア創出と共感～" 各種資料

16 6月23日 6時限 "ビジネス創出論②～バリューグラフ～" 各種資料

17 6月30日 5時限 "ビジネス創出論③～顧客価値連鎖分析(CVCA)～" 各種資料

18 6月30日 6時限 "ビジネス創出論④～品質機能展開～" 各種資料

19 7月5日 2時限 Seminar on Project & Program Management 田中弘(日本マネジメント協会前理事長)による3日間集中英語セミナー

20 7月5日 3時限 Seminar on Project & Program Management 7月5日10-18時

21 7月12日 2時限 Seminar on Project & Program Management 7月6日10-18時

22 7月12日 3時限 Seminar on Project & Program Management 7月12日10-18時

**成績評価方法:**

授業参加50%, レポート課題1, 250%

レポート課題は個人の読書レポート 経営学の古典1冊を課題図書とする予定。

ならびにプロジェクトレポートの2種類

**テキスト(教科書):**

なし

**参考書:**

多数あり、HPにて詳細を指示

**担当教員から履修者へのコメント:**

KBSセミナー「Project & Program Management for the Grand Design Seminar」7月5日、6日、12日の3日間セミナーを原則として履修すること。これはProject & Program Managementの導入セミナーで、履修証、CPU認定がある。

**関連する科目**

本科目を履修した学生には、ブランド・デザイン・プロジェクト1, 2の履修申請を勧める。

**質問・相談:**

講師にe-mailで質問のこと。

## グローバル戦略経営論 2単位(1学期)

教授 磯辺 剛彦

### 授業科目の内容:

本授業は「グローバル戦略」を「リサーチデザイン・研究方法」という切り口で考えることを目的とする。KBSでは修士論文が修了要件になっているが、残念ながら多くの修士論文が研究論文の体裁になっていない。そこで、本授業では「リサーチとは何か」を理解するために「グローバル研究の研究論文」を使う。

具体的には

- (1) リサーチデザイン(事例・統計)の考え方
- (2) グローバル研究における主要な研究領域
- (3) グローバル研究における実証研究論文の輪読
- (4) 実際にアンケートデータを用いて、仮設構築、統計分析、発表を行う

### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

### 成績評価方法:

出席・クラス貢献(発言) 50%  
グループワーク(分析発表) 20%  
個人レポート 30%

### テキスト(教科書):

『リサーチ・デザイン:経営知識創造の基本技術』田村正紀著 白桃書房

### 参考書:

『国際ビジネス3:企業戦略と事業運営』チャールズ・ヒル著 楽工社

『国境と企業:制度とグローバル戦略の実証分析』磯辺、牧野、チャン著 東洋経済新報社

## グローバル・イノベーション 2単位(1学期)

Managing Global Innovation

教授 浅川 和宏

### 授業科目の内容:

This course focuses on the global aspect of innovation management, and provides major frameworks for analyzing the way multinational corporations (MNCs) build, integrate, and leverage capabilities around the world. The course is designed to offer the state-of-the-art concepts, ideas, and practical insights into the complex world of global innovation. We cover a wide range of topics on global innovation management through extensive reading of books, research articles, and cases on the related subject. Class discussions will be based on lectures, readings, and case analysis on the MNCs that are active in global innovation. The entire discussion will be conducted in English.

### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインをご参照ください。Please refer to the course outline posted on the website for the KBS students.

### 成績評価方法:

Class participation 60%; Individual assignment\* 40%

\*The individual assignment consists of a concise write-up addressing the main challenge for any company of your choice. The write-up should be 2 pages, (single-spaced) action oriented, logically built executive summaries of your recommendations to the company. The term paper should be written in English language. Assignments are due on the day of the last session. No late submission will be accepted.

### テキスト(教科書):

Doz, Y. and Wilson, K. (2012) Managing Global Innovation: Frameworks for Integrating Capabilities Around the World. Boston, MA: Harvard Business Review Press. ISBN:-13:978-1-4221-2589-2 90000

### 参考書:

浅川和宏(2003)『グローバル経営入門』(日本経済新聞社)

## 経営管理会計 2単位(1学期)

商学部教授 横田 絵理

### 授業科目の内容:

経営管理を行ううえで、会計情報の活用はトップマネジメントの意思決定、組織メンバーのモチベーションなどさまざまな影響を経

営活動に及ぼす。本科目はこうした会計情報とそれを生み出す仕組みを、受講生が経営管理にたずさわるときにどのように活用し、どのように経営活動にいかすべきかに主眼においてケースディスカッションを行う。

トピックスとしては、予算管理、業績評価会計、事業部制会計、バランスコアカードなどを予定している。

受講者は、これらのトピックスの対象を単なるテクニカルなツールとしてではなく、経営にたずさわることについての会計情報とそれを生み出す仕組みの意味と影響を考えることを求められる。これにより、経営管理にとっての会計の仕組みとはいかなるものであるかを深く理解する力を修得することを期待する。

### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

### 成績評価方法:

・授業中の貢献度 40%  
・報告内容(中間、担当部分含めて) 20%  
・学期末レポート 40%

### テキスト(教科書):

教科書は特に指定しない

### 参考書:

参考文献は授業内に提示します。体系的に学習したい方々には次のようなものが例としてあります。

- ・横田絵理・金子晋也『マネジメント・コントロール--8つのケースから考える人と企業経営の方向性』有斐閣2014
- ・園田智昭・横田絵理『原価・管理会計入門』中央経済社 2010(極めて入門書です。ゼロから始めたい方に。)
- ・清水孝、長谷川 恵一、小林啓孝、伊藤嘉博『スタンダード管理会計』2009

## 経済性分析 2単位(1学期)

教授 河野 宏和  
理工学部准教授 稲田 周平

### 授業科目の内容:

本講座では、将来に向けての意思決定を主に経済的な側面から支援するための考え方と技法について、事例分析や演習を交えながら体系的に学習することを目的とする。このような考え方・技法は、一般に経済性工学と呼ばれる領域で体系化されているもので、対象とする時点が意思決定時点より将来であることから、伝統的な財務会計と考え方が異なり、経営においては両者を目的に応じて適切に使い分けていくことが重要になる。本講座では、主に以下の内容をカバーする。

- ・比較の原則とその応用
- ・全部原価計算と直接原価計算
- ・埋没費用、残存簿価、減価償却と設備更新
- ・手余り状態・手不足状態と改善効果・機会損失
- ・優劣分岐点と損益分岐点
- ・資金の時間的価値と換算係数
- ・単一投資案の評価指標:正味利益、回収期間、内部利回り
- ・独立案、排反案、混合案からの選択問題
- ・税引前利益と税引後利益
- ・不確実な状況での分析手法:感度分析、採算検討図、優劣分岐線図など

対象とする意思決定は、設備投資、工場立地、情報システム投資、間接業務の合理化、営業活動の効率化、プロダクトミックス、内外製区分、海外立地とロジスティクスなど、多岐に適用可能である。講座の後半では、キャッシュフロー経営や国際会計基準、財務会計との比較、実際の企業で用いられている投資評価マニュアルにも言及する。

### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

### 成績評価方法:

毎回の課題提出と期末レポートで評価します。

### テキスト(教科書):

『改訂版 経済性分析』千住鎮雄、藤田精一、伏見多美雄、山口俊和(日本規格協会、1986年12月)

### 参考書:

『新版 経済性工学の基礎 意思決定のための経済性分析』千住鎮雄、伏見多美雄(日本能率協会マネジメントセンター、1994年6月)

『経済性工学の演習』千住 鎮雄、中村善太郎、丹羽 明（日本能率協会マネジメンセンター、1994年7月）

**担当教員から履修者へのコメント:**

会計管理（基礎科目）と多少関連しますが、その成績は問いません。

**経済理論 I 2 単位(1 学期)**

Economic Theory I

教授 姉川 知史  
講師 川村 顕

**授業科目の内容:**

本科目は修士課程1年生を主な対象として1学期に実施する。

次の目的を持つ。第1に、学生が、マイクロ経済理論の標準的内容を理解し、応用能力を獲得することである。第2に、2 学期以降の基礎科目、専門科目に関する学生の理解を助けることである。

対象学生は、これまで大学の入門レベルのマイクロ経済学を履修したことのない学生、また理解が十分でない学生である。主に1年生の学生を対象とし、2年生については履修許可制として、毎年90人前後を想定する(下記の説明と、履修注意参照)。

授業は、世界標準の代表的教科書を使った講義を行う。2クラス編成により、2人の講師が分担して教える。授業では教科書参考資料、Pindyck and Rubinfeld, Microeconomics 8th ed.を解説し、さらにその応用を説明する。

学生は教科書を読んで理解することが課せられる。さらに、いくつかの題材についてはケース・メソッドを行う。

**授業の計画:**

<本システムは学年途中の修正ができないため、最新の内容は下記を参照してください。>

1. KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。
2. また、KBSならびに他研究科の学生は講師のHPを参照ください。  
<http://labs.kbs.keio.ac.jp/aneawalab/index.html>

1-3 導入：市場、需要、供給、価格について

Pindyck and Rubinfeld 2012 Microeconomics, Ch.1,2

事例教材

4-7 消費の理論

Pindyck and Rubinfeld 2012 Microeconomics, Ch.3-5

事例教材

8-14 生産、費用、競争、独占の理論

Pindyck and Rubinfeld 2012 Microeconomics, Ch.6-12

事例教材

15-20 ゲーム理論、情報の非対称性、環境

Pindyck and Rubinfeld 2012 Microeconomics, Ch.13-18

事例教材

**成績評価方法:**

授業参加、中間試験、期末試験

**テキスト(教科書):**

Pindyck and Rubinfeld, Microeconomics 8/e, Pearson, 2012.

そのHP 上の補助教材システム MyEconlab access kit (希望学生のみ)

日吉生協で各自注文し、購入すると、注文から購入まで3週間かかるため、4月の第2週には注文を完了しておくこと。この教科書の2/3を授業で解説する。

**参考書:**

本授業の事前準備としては次の文献を薦める。ゲーリー E.クレイトン、大和総研教育事業部(監修)『アメリカの高校生が学ぶ経済学-原理から実践へ』WAVE出版, 2005

**担当教員から履修者へのコメント:**

<履修注意>

当科目は、マイクロ経済学未履修者が本研究科においてそれを履修する唯一の機会であり、1年生1学期科目である。科目開設以来、過去17年間、1年生の8から9割が履修してきた。統計学入門も同様である。

しかし、2013年度は、1学期の経済理論Iと統計学入門の履修者が極めて少なく、1 学年の大多数の学生がマイクロ経済学と統計学について理解不足となる想定外の状況が生じた。

世界の標準的MBA教育プログラムにおいて、「経済理論1」のマイクロ経済学、「経済理論2」のマクロ経済学、「統計学入門」の確率・統計学の内容は必須科目であり、MBA学生の大半はそれらの科目を履修する。

これに対して、当研究科では、これらの3科目の内容を、入学前にすでに履修している学生が1から2割ほどいること、3科目の内容は基礎入門的なものであることから、敢えて基礎科目とはせず、1年1学期あるいは2学期の「選択科目」として実施している。

したがって、これら3科目の大学学部レベルの科目の未履修者は、これらの選択科目を履修するか、選択しない場合は、1年次2学期半ばまでに独習し、それらの内容を完全に習得することが求められる。

マイクロ経済学、マクロ経済学、統計学入門の理解のない学生に対して、MBA教育が十分に行われる可能性はない。この点を理解することが最初に必要なことである。

**質問・相談:**

科目内容、カリキュラムにおける位置づけ、履修選択などに関する疑問が生じたときには、履修申請前のタイミングで、科目担当教員に必ず問い合わせてください。

**集中企業研究 2 単位(1 学期)**

経営者としていかにデザイン会社を活用するか?

講師 三富 正博  
准教授 村上 裕太郎  
教授 渡辺 直登

**授業科目の内容:**

目的: 企業のトップの視点に立って、企業価値の創造にコミットできるプロフェッショナルな経営者の育成を目的としています。

方法: 1 学期間に1 つの企業を複数の領域から深く分析します。今年取り上げる企業は、デザイン会社のnendo (<http://www.nendo.jp>) です。デザイナーの佐藤オオキさんとマネジメンの伊藤明裕さんが2002年に立ち上げたnendoは、いまや日本を代表する世界的に活躍しているデザイン会社となっています。今年の授業では、学生のみなさまに一企業の経営者として「どのようにデザイン会社の力を活用して価値を創造していくのか?」というテーマで取り組んでいただきます。原則毎回伊藤さんに参加していただき、第3回から第5回まではnendoとコラボをしている実際の経営者に来ていただき、どのようにしてデザイン会社を活用して価値を創造しているのかについてディスカッションしていきます。現在、百貨店の西武、小売りの大塚家具、ものづくりからはコクヨと日清食品を考えています。このうち3社の経営者に来ていただこうと考えています。学生の方には、これらの経営者とのディスカッションから、自分たちが経営者であれば、どのようにデザイン会社を活用して価値を創造していくかを考えていただきます。さらには、授業全体をプロジェクトマネジメントしていただき、アウトプットとして対象企業のケース教材を完成させ、作成ケースを用いた公開の教育授業をしていただきます。今回の教育授業は6月3日(金)を予定しています。

内容: この科目は3つの内容から構成されています。①企業分析アプローチの明確化、②企業分析、③ケース教材の作成と教育授業です。

① 企業分析アプローチの明確化: 「トップの視点とは?」、「複数の領域とは?」、「深く分析するとは?」、「企業価値の創造とは?」、「経営するとは?」等についてクラスでブレインストーミングし、企業分析アプローチを明確にします。さらには明確にしたアプローチを通じて企業分析をするための事前準備を行います。

② 企業分析: ①で明確にしたアプローチに沿って企業分析を行います。分析には、対象企業の経営者による講演あるいは経営者へのヒアリング等が含まれています。

③ ケース教材の作成と教育授業: ケース教材の作成と作成ケースを用いた教育授業を実施します。教育授業はこの授業に参加しないKBSの学生(10名前後)と社会人で経営に関わる方々(20名前後)をお呼びして学生が主体となって進めていきます。最後にnendoからコメントをいただきます。

学生に期待する点:

将来事業会社のトップとして、デザイン会社を活用して企業の価値創造にコミットしたい学生の受講を期待します。外部から分析して終わる授業ではありませんので単に評論したい方の受講はお控えください。

その他:

クラスの人員は最大で15名程度を予定しています。履修希望者が多い場合には選考を行う可能性があります。

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

**成績評価方法:**

出席、発言、授業への貢献等を勘案して評価します。

**テキスト(教科書):**

なし

**参考書:**

授業で紹介します

**担当教員から履修者へのコメント:**

集中企業研究は今年で6年目です。過去取り上げた企業は1年目オムロン、2年目パルス、3年目青山フラワーマーケット、4年目パソニックの携帯電話事業、昨年はタマチ工業です。

今年の授業は、「一事業会社の経営者としてどのようにデザイン会社を活用して価値を創造していくのか?」という観点からデザイン会社のnendoを取り上げます。

1991年以降右肩下がりである日本はまだ復活の兆しが見えていませんが、それは過去の延長に未来がないことを意味しています。つまり、どんなにもづくりの強みがあったとしても成熟化した時代においてはものづくりの強みだけでは価値を創造することはできないとの仮説を持っています。このような時代においては、欧米企業の過去の歴史を振り返るとデザインの力を活用していくことで企業として進化していくのが時代の流れのように見えます。日本においても幸いnendoが既にそのような活動を10年以上おこなっています。さらに実績は素晴らしいものがあり、世界的にも今や有名なデザイン会社となっています。今後もこの流れは続き、さらには加速していくのではないかと考え、今回nendoを取り上げることにしました。nendoの佐藤さんと伊藤さんのご協力のもと学生のみなさんに「一事業会社の経営トップとしてデザインの力を活用してどのように価値を創造していくのか?」という観点から楽しくかつ真剣に議論していただければと思っています。マネジメントの伊藤さんは第2回以降の授業から原則毎回参加していただけることになっています。現在30代半ばの伊藤さんとのディスカッションを学生のみなさまも楽しんでいただけるのではないかと思います。

今年の授業では、nendoだけではなく、nendoと実際にコラボをしている事業会社の経営者も3名ほどお呼びする予定です。学生のみなさまにとっては経営者が何を考えているのか実際にディスカッションを通じて触れることができる貴重な機会になると思われま

## 新事業創造体験 2単位(1学期)

講師 若山 泰親  
教授 岡田 正大

**授業科目の内容:**

**【科目のねらい・目標】**

本科目の目的は、使命感をもって新たなビジネスを企画・立案・実行できるリーダーの育成である。ベンチャー企業においても、また、大企業の新規事業開発部門においても、イノベーションの創出とその事業化をマネジメントし、事業と企業の価値を高めていける人材が待望されている。本コースでは、事例研究とビジネスプラン作成(新規起業、既存企業内での新規事業どちらでも可)のためのグループワークを通じ、グローバルに通じる事業、企業を創出するための戦略立案能力を学習するとともに、実際の新規事業において直面する課題とその克服に関するフレームワークを学習する。

また、リーダーとして強化すべき資質であるところの、アントレプレナーシップ、戦略立案能力、ビジネスデベロップメントに関わる各種統合的な能力、コーポレートファイナンス領域におけるスキル、柔軟でスピード感のある事業運営能力、リーダーシップおよび

組織マネジメント能力などについても、強化のための指針を示すものとする。

**【授業で扱う領域】**

新事業のビジネスプランの策定に必要なスキルの習得と、フィールドワークを通じた新事業開発の体験を主に取り扱う。ビジネスプランについては、受講者自身が手を動かしてプランを作成することを予定しており、実際の新事業創造局面での活用に耐えうるビジネスプラン作成スキルの習得が可能である。

授業は、(1) 講義・ケースディスカッション、(2) 外部講師参加によるリアルケース演習、(3) ビジネスプランの立案・フィールド調査・発表、の組み合わせにより進められる。

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照してください。

**成績評価方法:**

1. クラスへの出席とクラス貢献 25%
2. 個人及びグループワークで作成するビジネスプランの評価 50%
3. フィールドワークの評価 25%

**テキスト(教科書):**

指定なし

**参考書:**

「アントレプレナーの教科書」 スティーブン・G・ブランク(著), 渡邊哲(翻訳), 堤孝志(翻訳)

「Getting to Plan B」 John Mullins(著), Randy Komisar(著)

「キャズム」 ジェフリー・ムーア(著), 川又政治(翻訳)

「ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書」 アレックス・オスターワルダー(著), イヴ・ピニユール(著), 小山龍介(翻訳)

**担当教員から履修者へのコメント:**

主体的にビジネスプランの策定とフィールドワークに取り組むことを要望する。実際に起業や既存企業内での新事業立ち上げに取り組む履修者を歓迎する。

なお、想定している受講者は下記の通りである。

- ・ 具体的な起業プランや将来起業する構想を持ち、ビジネスプランのブラッシュアップ、実践を考えている学生
- ・ 新規事業開発のフレームワークを学びたい学生
- ・ ベンチャーキャピタル、金融機関などの立場からベンチャー企業の評価のための知見を得たい学生

## 生産マネジメント 2単位(1学期)

教授 坂爪 裕

**授業科目の内容:**

本年度の生産マネジメントでは、事例研究をベースとした製品アーキテクチャ論、及び製造現場の技能論を下敷きにして、製造企業の技術と技能に関する諸問題を扱います。具体的には、製品のモデルチェンジや企業の合併・提携における製品アーキテクチャのダイナミックシフトに関わる諸問題、製造業の海外展開に伴うアーキテクチャのフィットネスに関わる諸問題、及び海外展開に伴う技能の移転に関わる諸問題について扱います。本講はゼミ形式で行います。毎回、レジュメ発表者が指定図書の要約を発表し、その後に質疑応答+問題提起+全員でディスカッションを行い、適宜担当教員が補足説明を加えるというプロセスで進行します。

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照してください。

**成績評価方法:**

評価については、履修者の数にも依りますが、ほぼ毎回のレジュメ発表とクラス貢献、最後に発表して頂くリサーチプランの内容で判断します。

## 戦略コンサルティング 2単位(1学期)

ボストンコンサルティング寄附講座

教授 岡田 正大  
教授 小林 喜一郎

**授業科目の内容:**

戦略コンサルティング会社のリーダー的存在であるボストン・コンサルティング・グループより講師を招聘し、コンサルティング現場の実例に基づいた講義を行う。これによって経営の今日的課題を理

解し、同時にコンサルティングの手法・アプローチ・頭の使い方を学ぶ。主たるテーマは、戦略コンサルティングの概要、バリューポ  
ートフォリオマネジメント、マーケティング・営業戦略、プレゼン  
テーションテクニック、デコンストラクション、ICT戦略、コーポレ  
ートガバナンス、BCG コンセプト等を予定している。

なお履修に関する注意事項としてまず、都心教室開催のため教室キ  
ャパシティの制約があり、定員を超える履修があった場合は抽選と  
なる。また履修登録をする為には、事前の仮登録が必要となる。毎  
回グループプロジェクトおよび個人発表準備などがあるため、事前  
の入念な準備が不可欠である。全回数の出席を必須とし、遅刻は認  
めない。

さらに都心開催のため、日吉との往復が新たに発生するので、午後  
の授業と講義概要のバランスを考える必要がある。上記を十分勘案  
したうえで履修すること。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

出席、グループ課題、個人課題

#### テキスト(教科書):

特になし

#### 担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: 総合経営、競争戦略論

## ヘルスケアマネジメント 2単位(1学期)

無し

講師 田中 滋

#### 授業科目の内容:

医療・介護にかかわるヘルスケア分野は、市場規模の大きさ、従  
事者数の多さと今後の成長、そして次世代産業のシーズを生み出す  
可能性の高さなど、どれをとっても日本経済のもっとも重要な産業  
の代表といえます。一般企業にとっても、新たな事業対象として無  
視できない分野です。

かつての医療・介護事業では提供機関完結型経営が主流でしたが、  
今後は新しい医療計画および地域包括ケアシステムのコンセプトの  
下、統合された、もしくはネットワークでつながった地域完結型の  
ケアプランを共有する経営手腕を備える必要があります。こうした  
理解の下、多彩なケースと資料を用いた討議によってクラスを進め  
る予定です。加えて、この分野は政策・制度面の影響が大きいので、  
その点も意識した指導を実施していきます。

なお、現在ヘルスケア分野の第一線で活躍する先輩たちがミニレ  
クチャー講演を行い、クラス討議に積極的に参加し、諸君と交流す  
る点も本科目の魅力の一つです。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

クラス討論への貢献と期末レポートを同じウェイトで評価します。

#### テキスト(教科書):

田中滋・榎本三郎編『介護イノベーション』第一法規2011

高橋欽士編『地域連携論』オーム社2013

#### 参考書:

さらに読みたい人のための参考文献

田中滋・古川俊治編『MBAの医療・介護経営』医学書院2008

片山壽『父の背中での地域医療「尾道方式」の真髄』社会保険研究  
所2009

#### 担当教員から履修者へのコメント:

毎回の設問に答えられるよう予習に力を入れること  
秋学期のヘルスケアポリシー科目が密接に関係する隣接分野を扱い  
ます

#### 質問・相談:

アポイントメントはメールで tanaka@kbs.keio.ac.jp

## ベンチャーキャピタリスト養成 I 2単位(1学期)

講師 西戸 雄太

講師 村口 和孝

#### 授業科目の内容:

なぜベンチャー企業は成功したり失敗したり一見不安定に見える  
のか。起業経営は、従来の大企業組織型経営とどう違うのか。起業  
家はサラリーマンとどう違うのか。KBS卒業生がフェイスブック  
など新事業に成功するための条件は何か。また前提として、新分野

の事業活動、及び資本組織としての企業の創立と発展の本質を、ど  
う理解すればよいか。技術革新スピードが早く、グローバルに、資  
本市場と結びついて劇的に変化する現代経済社会の中であって、経  
済フロンティアを切り拓く創業ベンチャー企業を投資支援するベン  
チャーキャピタル(VC)の重要性が世界的に高まっている。

ところが金融機関の関係会社として1970年代にスタートした日本  
のVC産業は、これまで欧米に比べ創業支援の社会的機能を果たして  
きたとは言い難い。投資事業有限責任組合法が施行になったところ  
から、日本でも創業支援に重きを置く「クラシックVC」が登場した。  
その代表が、私が運営する日本テクノロジーベンチャーパートナー  
(NTVP、1998年創立)である。

投資先にはエクスペリアンジャパン、ジャパンケーブルキャスト  
などがある。成功ケースとして、携帯サービスのモバゲータウンや  
ベイスターズ買取で話題となったDeNA(創業:南場智子)、XML応用ソ  
フトウェア開発のインフォテリア、天然水宅配のウォーターダイレ  
クト、調剤薬局のインファーマシーズ等を、創業から経営に関与  
し、数々の困難を乗り越え東証マザーズ等に上場させて来た。

本講座は、NTVPにおけるDeNAやインフォテリア、ウォーターダ  
イレクト等のキャズムを超える創業支援体験を踏まえ、使用テキス  
トの読み込みを軸に、ベンチャー会社立上げから、創業の試行錯誤  
の活動、そして商品発売から加工販売、決算作業など、経営の実際  
を総合的に理解する。またVCファンド設立契約実務、投資候補先  
の審査や、投資後の長期的関与の考え方と手法を、実体験を通じて  
学ぶ。

おそらく日本で初めての現場で活躍するベンチャーキャピタリス  
トによる、キャズムを越えようとするベンチャー経営、ファンド設  
立、及び投資先支援、回収の実践講座である。ほぼ毎月数回づつ、  
上場ベンチャー起業家や、弁護士、会計士、司法書士、社労士など  
ゲスト実務家を、随時招いて交流してもらおう。

なお本講座は、座学のみでなく、講座の時間の中で、慶應大学理  
工学部・大学院(矢上)において毎年実施される会社創業体験プロ  
グラムの授業と連携して、チームに分かれてVCファンドを実際に創設  
運営し、VC役を担い、理工学部生・大学院生の矢上祭における模擬  
店など小事業に対し投資して実際に支援し、ファンドとしての成果  
を、競争して出してもらおう。また、理工学部講義に参加して学部生・  
大学院生を指導する。その過程で、事業計画の評価や投資および小  
会社運営への関与の実践を通じ、会社経営およびVC投資活動を考察  
し、発表しあう。

また、今年はKBS自由科目の8月夏季集中スタートアップ創業体験  
プログラムの支援活動も授業の一部に取り入れる。さらにベンチャ  
ー企業訪問や株主総会出席、チーム活動および対外交流も行う。各  
々の体験から随時体験レポートを作成してもらい、理論だけでなく、  
株式会社運営実務と、創業ベンチャーが事業失敗や困難を克服して  
キャズムを超えていくダイナミックな事業プロセスを含む、トータ  
ルな会社経営成功観を、実感を持って身に付けてもらおう。したが  
って真に経営実践および投資実践に興味を持つ、活動的で、能動的な  
時間を持つとする受講者のみを対象とする。受動的受講者には厳  
しく、また通年で受講することが望ましい。

また、講義が始まるまでに「アントレプレナーの教科書」(翔泳  
社)内容把握が条件で、その本の要旨を、4月中にレポートとして提  
出することが、受講の必須条件である。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

出席が基本である。それに授業中に出されるレポート提出、活動へ  
の取り組みの積極性等をもとに評価する。

#### テキスト(教科書):

NTVP作成の創業体験ノート、「アントレプレナーの教科書」(ステ  
ィーブン・G・ブランク著、堤孝志/渡邊哲 訳、翔泳社)、「スタートア  
ップ・マニュアル」(スティーブン・G・ブランク、ボブ・ドーフ/著、飯野  
将人/堤 孝志 訳、翔泳社)、「最強の起業戦略」(リチャード・ドー  
フ/トーマス・バイアース著、設楽 常巳 訳、日経BP社)、「日本のブ  
ルーオーシャン戦略」(安部 義彦、池上 重輔 著、ファーストプレ  
ス社)、「ビジネスモデル・ジェネレーション」(アレックス・オスタ  
ーワルダー/イウ□・ピニユール著、小山龍介訳、翔泳社)、および、  
その他、ベンチャー 起業活動、ベンチャー経営に関する著書

#### 担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: ベンチャーキャピタリスト養成II (2学期開講)

各授業の後で、専門家や起業家を交えた交流会を開く事が多いのが、参加すると、さらに教育効果が深まると思われるが、必須ではない。

## マーケティング戦略 2単位(1学期)

教授 余田 拓郎

### 授業科目の内容:

本コースは、フィールドワーク科目です。フィールドワーク科目であることを前提として受講してください。フィールドワークのテーマは、マーケティング戦略、事業戦略、およびブライシングや製品戦略などになります。

本コースでは、具体的な事例に基づいてマーケティング戦略や事業戦略を策定することをとおして、現在進行する実務に直結した意思決定を行うことにねらいがあります。受講生自身の意思決定能力について、「腕試しする」というスタンスで受講すること期待します。

本コースは、前半をケースによるマーケティングのフレームワークに関する討論と、とりあげるテーマに関する講演ならびに受講生による事例提案(シーズ紹介)にあて、後半をグループによるフィールドワークならびにコンサルテーション(プレゼン)で構成します。最終の報告会では、供出テーマの経営者もしくは企画担当、およびコンサルティングファームのコンサルタントの出席のもと開催します。グループワークは、受講者数によって変わりますが、1グループ3、4人になるようグループ分けする予定です。

### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

### 成績評価方法:

平常点(中間報告、ケース参加)、最終のプレゼンテーションならびにレポートによって評価する。

### テキスト(教科書):

なし

### 参考書:

石井・嶋口・栗木・余田(2004)『ゼミナール マーケティング入門』日本経済新聞社。

### 担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目:基礎科目「マーケティング」

## マネジリアル・エコノミクス 2単位(1学期)

教授 大林 厚臣

### 授業科目の内容:

経営戦略や企業組織に関する問題を経済学的に分析します。ここでの「経済学的」の意味は、基本的に、当事者にとっての選択肢のメリットとデメリットを比較して分析することと考えて下さい。教科書は「戦略の経済学」と「組織の経済学」の2冊を使いますが、どちらも通常は1冊でビジネススクールの1科目をカバーするものです。範囲に重複があるので2科目分まではいきませんが、欲張りな内容をカバーするつもりです。

あえて範囲を広げているのは、体系的知識を扱う限られた時間の中で、できるだけ多くの視点や理論を紹介しようという意図からです。ケースは何点か使いますが、割合としては講義とQ&Aが多くなります。ただし受講者に内容をすべて暗記してもらうことが目的ではありません。むしろ多くのトピックを紹介する中から、好奇心や探究心を深く刺激するトピックを見つけてもらうことに主眼を置いています。自分に合った「道具」や「考え方の枠組み」をみつけてもらうことです。そのため、個々のトピックが扱う問題意識や、トピック相互の位置づけなども重視して説明します。受講者は、たとえば修士論文に使えるような視点や技法を探するという気持ちでも構いません。受講者の論理的思考の「道具箱」が豊かになれば、科目の意図は満たされると考えています。

### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

### 成績評価方法:

授業中の貢献と期末レポートを、それぞれ50%のウエイトで評価します。レポートは授業で扱う視点や理論のどれかを選んで、自分の興味があるテーマに応用して書いてもらいます。

### テキスト(教科書):

デイビッド・ベサンコ他、「戦略の経済学」、ダイヤモンド社。

ポール・ミルグロム他、「組織の経済学」、NTT出版。

### 参考書:

授業用のレジュメを配布します。このレジュメは毎回授業に持参してください。レジュメには参考文献も紹介してあります。

## 流通論 2単位(1学期)

准教授 坂下 玄哲

### 授業科目の内容:

我が国における流通に関する基本的問題について理論的検討を加え、そこにいかなる戦略的対応が可能であるかを考察する。具体的な授業形式(予定)としては、①講義およびケース討論、文献購読などを通じて、流通にかかわる諸問題への代表的アプローチを理解した上で、②具体的なテーマに沿ってグループ単位でプロジェクトを実施し、実践的な理解を深めることを目指す予定である。

### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照してください。

### 成績評価方法:

出席や授業内発言、文献発表やプロジェクト発表などをベースに総合的に評価します。

## 日本証券市場論 2単位(2学期)

石井久 KBS チェアシップ基金寄附講座

准教授 小幡 績

准教授 齋藤 卓爾

准教授 高橋 大志

### 授業科目の内容:

本年はKBS財務教員3名による授業となる。

小幡は、株式市場、国債市場を中心に投資家行動の分析を行い、理論と現実の動きについて、学生と共に毎回議論を行う。

また、新興国市場におけるケーススタディ(英語)も2ケース行う。齋藤は、理論および実証研究の方法などについて日本の株式市場のデータを中心に指導を行う。

高橋は、企業活動とマーケットの関連性等について、議論する。複数のゲストスピーカーを迎え、現場の投資家ともディスカッションを行う。

### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

### 成績評価方法:

期末レポートを課す

### テキスト(教科書):

なし

### 参考書:

未定

## 不確実性と組織のマネジメント 2単位(2学期)

"Uncertainty and Management in Organizations"

Language of instructions: English

教授 清水 勝彦

### 授業科目の内容:

#### Overview:

"Every decision is risky: It's a commitment of present resources to an uncertain future."

Peter Drucker

It is fair to say that management is a different name of continuous struggle with uncertainties. Besides uncertainties involved in external environments (e.g., exchange rate, government policies and regulations), we have to understand manage uncertainties related customer needs as well as those within an organization (Do you know how loyal your employees are?).

However, uncertainties are not always bad. If everything is fixed, there are no such things as recovery or hope for small players. Uncertainties are a main source (at least one of the sources) of success or failure of organizations. In this sense, management of uncertainties has been and will be an important issue for all managers.

### 授業の計画:

Please refer to course outlines which can be found in KBS student's page

成績評価方法:

Grading:

Class contributions 50%

Individual assignments 20%

Group projects 30%

テキスト(教科書):

Texts and readings:

1. Cases developed by KBS and Harvard Business School
2. Harvard Business Review and other articles

参考書:

References (FYI):

1. Weick, K.E., & Sutcliffe, K.M. 2001. Managing the Unexpected (Jossey-Bass)
2. Pfeffer, J. & Sutton, R.I. 2006. Hard Facts, Dangerous Half-Truths, and Total Nonsense (Harvard Business School Press)
3. Welch, J. 2002. Winning. (Harper Business)
4. Cameron, K.2012. Positive Leadership (Berrett-Koehler)

イノベーションマネジメント:アジアにおける革新 2単位  
(2学期)

"Innovation Management: Asian Way"

Language of instructions: English

特別招聘教授 朴 成柱

授業科目の内容:

■COURSE DESCRIPTION

Innovation is imperative for survival of an organization. It is the sustainable source of competitive advantage for firms around the world. However, innovation is not easy and thus we have witnessed a multitude of failed innovation projects. Building an organization to succeed in continuous innovations is a daunting managerial challenge. This course is intended to help students to understand innovation and to improve their ability to manage creativity, innovation and organizational change in business, social enterprise, and in any organizations. While we see several examples of technological innovation, we will focus on not only the innovation management of technology but also of products, processes and business models.

■COURSE OBJECTIVES

The course is designed to help students to answer the following questions:

- What is innovation?
- What is the model of innovation processes?
- What are the conditions for successful innovation?
- What causes innovation to fail?
- How should we manage an innovative team?
- How to change in organization for successful innovation?
- What is an innovation portfolio and how can we manage one?
- How can we manage the network of innovation effectively?

Asian innovations: How could Asian companies such as Huawei, Samsung, Toyota have succeed in innovation?

授業の計画:

Please refer to course outlines which can be found in KBS student's page.

成績評価方法:

Quizzes (2) 20 Points

Class Presentations 20 Points

Term Project 50 Points

Class Participation 10 Points

Total 100 Points

テキスト(教科書):

There is no text. For the references and reading materials, refer to course outlines which can be found in KBS student's page.

質問・相談:

e-mail: sjpark@business.kaist.ac.kr

Office Hours: TBA

グランド・デザイン・プロジェクト I 2単位(2学期)

Grand Design Project I

教授 姉川 知史

教授 渡辺 直登

授業科目の内容:

本科目は「プロジェクト・フォーラム教育」を行う。

本科目は「グランド・デザイン策定の融合型教育」([http://anegawa.kbs.keio.ac.jp/Grand\\_Design\\_Project/](http://anegawa.kbs.keio.ac.jp/Grand_Design_Project/))に参加する学生のうち、研究科の単位履修を希望する学生のための科目であり、2学期「グランド・デザイン・プロジェクト1」と、3学期「グランド・デザイン・プロジェクト2」の2科目によって構成される。1科目のみでも履修可能である。

本科目の母体となるプログラム「グランド・デザイン策定の融合型教育」は2010-2011年度に「慶應義塾創立150年記念未来先導基金プログラム」として開始された、「グローバル・ビジネス・フォーラムによる日本のグランド・デザイン策定を行う融合型実践教育」を継続するもので、2014年度はその5年目を実施する。

このプログラムでは、日本と世界が直面する重要課題を選択して、その解決策、提言を行うためのグランド・デザイン策定を目的とし、専門領域横断的、世代縦断的融合教育を、プロジェクト教育、フォーラム教育の2つによって実施する。

このプログラムの当研究科における科目を、以下の内容によって構成する。

1. 研究方法論講義 問題発見, 問題設定, 研究手法, 論文の書き方, 発表方法等
2. プロジェクト・プログラム・マネジメント教育(Project & Program Management Seminar)
3. フォーラム講義 専門家によるフォーラム講義 (毎月1回)
4. プロジェクト研究の実施

履修要件: 「グランド・デザイン策定の融合型教育」プログラムについては5月に説明会を行い、プログラムへの参加申請を受け付ける。グランド・デザイン・プロジェクト1科目については、7月に履修申請を行う。

ここで本科目の一環として、7月週末に3日間集中セミナー Project& Program Management Seminar for the Grand Designを実施する(2014年7月5-6日, 12日予定)。本科目の履修予定者はこのセミナーに参加することが求められる。詳細は個別に相談。

9月にプロジェクト題材と、プロジェクト・チームを決定し、プロジェクト作業を実施する。

教育上の利点

1. 重要課題について、学生が自ら問題設定し、調査研究を行い、発表提言する機会
2. 課題チームにおけるプロジェクト・マネジメントの経験
3. 課題検討のフォーラムの企画、マネジメントの経験
4. 塾内外の教育資源へのアクセス、調査研究費の使用

学生の関心を反映した特定のプロジェクト課題を1つ設定し、研究科内外の学生、社会人、数人のチームを形成し、プロジェクト研究を行い、報告書を作成し、具体的提言を行う。プロジェクト課題としては、例えば「スマートシティ評価」、「エネルギー産業」、「開発途上国向けビジネス」、「都市再生」、「農林水産食品加工業」等がある。

授業の計画:

<本システムは学年途中の修正ができないため、最新版は次を参照してください。>

1. KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。
2. また、KBSならびに他研究科の学生は講師のHPを参照ください。  
<http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>

1-6 Special Seminar on Project & Program Management for the Grand Design (7月実施 7月5日-6日, 12日予定)

7-9 Forum 討議1(9月実施)

10-12 Forum 討議2(10月実施)

13-15 Forum 討議3(11月実施)

16-20 教育方法論, プロジェクト報告・指導授業

#### 成績評価方法:

評価基準: 授業参加, フォーラム参加, プロジェクト・レポート

#### 担当教員から履修者へのコメント:

グランド・デザイン・プロジェクト1, 2は「グランド・デザイン 策定の融合型教育」プログラムに参加する学生で, 単位履修する学生のために提供する。本体プログラムについては, HPを参照のこと。

[http://anegawa.kbs.keio.ac.jp/Grand\\_Design\\_Project/index2.html](http://anegawa.kbs.keio.ac.jp/Grand_Design_Project/index2.html)

本プログラムの過去のフォーラム配信記録

<http://www.ustream.tv/channel/keio-grand-design/videos>

#### 質問・相談:

本科目ならびにグランド・デザイン策定の融合型教育は文章による説明だけではわかりにくい。このため, オリエンテーションを5から6月に行うので希望者は参加してほしい(日程と場所はHP参照 <http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>)。また, フォーラムについては, 科目履修のイベントを, 2014年2月23日, 3月15日に予定している(場所は協生館5F, エグゼクティブ・ルーム)。

### 経営再建論 2単位(2学期)

講師 許斐 義信

#### 授業科目の内容:

本科目では企業の経営危機・経営破綻そして再生に関わる経営を”総合経営”の視点から扱う。経営危機は短期的経営課題と長期的経営課題が依存している。また課題領域も広く、資金繰りをはじめとする財務問題、経営陣と株主や債権者との間のガバナンス問題、そして従業員と経営陣との雇用契約問題、事業の選択と集中が不可避な場合には狭い意味での総合経営、つまり経営戦略的判断など諸問題に対して同時に意思決定をしなければならない。しかも個々の課題は実務的には専門性を強く要求されるので、18時間で本課題の全貌を扱うには大幅に時間が不足している。従って本講座では、できるだけ広範囲に経営再建に関わる総合経営的課題を粗上に上げて討議し、飽くまでも、今後の学習への道しるべを構築することに努めたい。専門的知識を深めたい希望する学生は個々に教員へ要請して頂きたい。

※履修者に対する担当教員からの要望:

科目履修者には金融機関などで企業再生に携わってきた経営者ももちろんであろうが、一方、その種の課題には実務的に触れた経験がない方も居るであろう。そのような状況で講座を進めるには教員側には工夫が必要だが、併せて履修者側にも、課題と保持してであろう知見との差を埋めるべく事前学習と討議への参画協力が要請される。

最終講義の内容だが、日本事業再生士協会で行なっている事業再生士(補)の試験を用いて、履修生の自己評価の機会を設けることも、代替案として考えたい。その実施の可否は受講生との討議に依り決定する。

また物理的制約からグループ討議を公式に導入することが困難のため、既定の講義スケジュールは適宜変更せざるを得ない。欠席した場合は次回の講座内容を同僚より聞いて参加することを勧めたい。また1-2ケースではグループ討議に代替して「次回までの宿題」にすることがある。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

講座終了後にレポート提出を要請する。成績は、講座への参画度(出席)とレポートの採点で評価する。時として再生士補の資格試験を行なって欲しいとの要請があり試験をしこともあるが、それをもって成績として公式な評価に利用したことはない。

#### テキスト(教科書):

許斐義信編著「ケースブック企業再生」中央経済社  
(注)一般の教科書的に利用する訳ではないが、講座の進行に併せて自習するためにも、読破頂きたい。

#### 参考書:

許斐義信編著「ケースブック事業再生」中央経済社(上記5とは別の書物です)

尚、数多くの学習を要する領域があるが、受講生の個別的関心や興味に応じて、適宜、参考文献を紹介したいと考えている。特に法律関係の学習が少ない現状を鑑み、倒産法だけではなく、会社法や民法などの参考文献を読まれることをお薦めしたい。尚、講座の中で倒産法に関するテクニカルノートを配布する予定である。

#### 担当教員から履修者へのコメント:

本講座は、経営の多様な要素の多くの領域と関わりがある。従って履修は2年生が好ましいという考えもできる。しかし本大学院では経営スキルの涵養を狙いとしていると考えているので、その意味で、専門科目の履修を決める前に、企業経営問題の総合性に触れることもまた重要であるから、1年生で履修することも、有意義であると考えている。

#### 質問・相談:

質問や相談を希望する者はメールで問い合わせして下さい。

メールアドレスは事務にてお尋ね下さい。

### 経営史 2単位(2学期)

講師 平井 岳哉

#### 授業科目の内容:

「日本経営史」として、明治から現代までの日本企業の発展要因を学ぶものです。過去において、「創業」「成長」「失敗」「倒産」など激動期を経験した企業の事例を毎回題材にして、企業の主体的行動の内容とその背景にある論理・原因について考察するとともに、主としてトップマネジメント層に限られますが、先人達のものとした選択の是非について議論します。また、この講義を通じて、時代の変遷に左右されない普遍的な経営システム、あるいは逆に、時代によって変化しつつある経営システムについて、ともに考えていきたいと思えます。

日本史の講義のような企業名・人物名・年号を暗記する授業ではありません。歴史を学ぶことによって、みなさんには結果として、現代の企業経営のあり方を時間軸から遠視・鳥瞰する力を修得してもらいたいと思います。講義は時代順にほぼしたがります。内容としては、「財閥」「企業の成長と失敗」「家族企業と経営者企業」「戦前と戦後」「企業グループに属している企業と独立系企業」というように、全コースを通じて複数の小テーマを設定しています。毎回事前にケースもしくは論文を配布します。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

授業でのディスカッションへの参加、レポート

#### テキスト(教科書):

指定教科書はありません。経営史にご興味のある方は、以下の本を参考書にして下さい。

#### 参考書:

『日本経営史』有斐閣 宮本又郎・阿部武司等著 1995年

『日本経営史の基礎知識』有斐閣 山崎広明代表編集 2004年

『外国経営史の基礎知識』有斐閣 湯沢威代表編集 2005年

### 経営実務講座—同窓生から現役生へ— 1単位(2学期)

教授 河野 宏和

教授 磯辺 剛彦

#### 授業科目の内容:

KBSは、3200名を超える卒業生をこれまでに輩出し、彼らはビジネスの最前線で活躍している。彼らが直面してきた課題や課題解決の工夫・苦労は、ビジネススクールで学ぶ者にとって、まさに生きた教材である。彼らの知見を共有することは、これからビジネスリーダーとして社会を先導していく現役の学生にとって、貴重な学習の機会になると期待される。

世界各地の様々な業界で活躍しているKBSの同窓生を、毎回1名ずつ招聘して講演と質疑を行う。業界・エリアに関するユニークな知見

や、経営実務の現場における成功・苦労両面からのリアルな実体験(教科書では分かりにくいこと)、およびそこから得られた視座についてお話しいただく。また、ビジネス面での話題や内容にとどまらず、同窓生として在校生に伝えたいこと、KBSで学んだことが卒業後のキャリアのように役に立っているか、KBSで学ぶ機会をどう活用すべきか、在学中に学ぶべき視点、というような在校生へのメッセージなどを含め、担当教員を交えてディスカッションする。

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

**成績評価方法:**

出席、ミニレポート(毎回の授業後ゲストスピーカーへの送付を考えている)

**テキスト(教科書):**

特になし

**参考書:**

特になし

---

**経営法学 I 2単位(2学期)**

講師 井原 宏

**授業科目の内容:**

・学習目標

経営法学の方法論としてのリーガルプランニングの考え方を理解したうえで、各ケースの事例および関係する法制度の基礎を学ぶことにより、実際の企業経営ないし事業活動に生かす道を考察する。講義による一方通行ではなく、履修者との間で質疑応答、履修者による問題提起や知見の汲み上げを通じて、各ケースのテーマに関する問題解決に向けて双方向の議論を深めていき、現代の企業が直面する内外のビジネス上の法律問題に対する解決能力を養うことを目指す。

・概要

ビジネスローの基礎理論としてのリーガルプランニングの考え方を企業経営・事業活動に活用する方法を検討する。企業経営・事業活動における重要な法律問題として、コーポレートガバナンス、内部統制・危機管理、契約管理・債権保全・公正取引・消費者保護などの企業取引管理、M&A・株主総会・取締役会などの企業組織・経営管理、人的資源管理、IT・情報管理・不正競争防止を含む知的財産管理、環境保護・贈答・投資家保護・企業犯罪・反社会的勢力・安全保障貿易管理などのコンプライアンス、クレーム・紛争・訴訟、企業グループを順次取り上げ、ケースメソッドにより具体的に検討する。

専門的な法律知識は特に必要ではなく、各ケースのテーマに関わる法制度についてその都度基礎的な理解ができるように講義や質疑応答などで配慮する。もともと、関係する内外の法制度(日本法および英米法)に関する予習・復習は不可欠であり、履修者はこの機会に積極的に取り組んでほしい。

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

**成績評価方法:**

質疑応答状況とレポート課題により総合的に評価する。

**テキスト(教科書):**

『現代企業法務(国内法務編)』井原宏・河村寛治・阿部博友編著 大学教育出版 2014年

『グローバル企業法』井原宏著 東信堂出版 2011年

**担当教員から履修者へのコメント:**

履修希望の皆さんは、KBS修了後は、ビジネスローに関する体系的な授業を受ける機会ほとんどないと思われるので、経営問題に伴う法律問題の重要性を認識してこの機会を十分に活用してほしい。

---

**経済理論 II 2単位(2学期)**

講師 江口 允崇

**授業科目の内容:**

マクロ経済学とは、一国全体(または世界全体)の経済の動きを分析する学問です。新聞やニュースでよく聞くデフレ不況や失業率増加、円高・円安、財政赤字、年金問題など、これらは全てマクロ経済学の研究対象です。これらの現象がなぜ起こり、我々や政府はどのように対応すべきかを考えるのがマクロ経済学の基本目的と言えます。本講義では、マクロ経済学の基礎的な理論を身につけることを主眼に置き、履修者が自分なりにマクロ経済学の理論に基づい

て経済問題を考えられるようになることを目的とします。基本的には、以下のような授業計画に従って進めていく予定です。

- 第1回 マクロ経済学とは何か?
- 第2回 国民経済計算
- 第3回 物価とインフレ率
- 第4回 短期と長期
- 第5回 大恐慌とケインズ経済学
- 第6回 45度線モデル(1) 財市場の基本構造
- 第7回 45度線モデル(2) 有効需要の原理と乗数効果
- 第8回 金融市場(1) 流動性選好と貨幣需要
- 第9回 金融市場(2) 利子率の決定と金融政策の役割
- 第10回 IS-LMモデル(1) 財市場と金融市場の同時均衡
- 第11回 IS-LMモデル(2) IS-LMモデルにおける財政・金融政策の効果
- 第12回 AD-ASモデル(1) 労働市場と総供給曲線
- 第13回 AD-ASモデル(2) AD-ASモデルにおける財政・金融政策の効果
- 第14回 財政・金融政策の諸問題(1) ゼロ金利下における経済政策
- 第15回 財政・金融政策の諸問題(2) デフレの弊害
- 第16回 政府債務と財政赤字
- 第17回 マクロ経済学の近年の展開
- 第18回 期末試験

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

**成績評価方法:**

最後の授業における期末試験の点数で評価します。

**テキスト(教科書):**

N.G.マンキュー『マンキューマクロ経済学Ⅰ・入門篇(第3版)』東洋経済新報社、2011年。

N.G.マンキュー『マンキューマクロ経済学Ⅱ・応用篇(第3版)』東洋経済新報社、2012年。

※但し、テキストに完全に従うわけではありません。

**担当教員から履修者へのコメント:**

板書によって授業を行うので、大量の板書をノートに書き写すことを覚悟して下さい。

**質問・相談:**

随時受け付けます。

---

**国際経済と新興ビジネス 2単位(2学期)**

Competing in Emerging Markets

講師 ロイ, アシヨック

**授業科目の内容:**

PURPOSE

Examine why Japan might see rapid change over next three to five years.  
Competitive dynamics of emerging markets - Threats and opportunities  
Impact of social media  
Developing a global approach to business as well as life  
Evaluating business opportunities - from investors' perspective  
目的

今後3-5年間で日本でどのような急激な変化が起きるかについて考察する

新興市場の競争ダイナミクス、脅威と機会

ソーシャルメディアの影響

ビジネスと人生に対するグローバルなアプローチを開拓する

ビジネス機会を検討 - 投資家の視点から

**授業の計画:**

1 YEN getting cheaper?? Impact on Japan Inc.

- Samurai export machine - adapting to new environment

- Macro-economic implications

2 Japan under RAPID transformation

- Drivers of change

- Potential consequences

3 Emerging Markets - source & scale of demand

- Demographic trends in various key markets
- Resources and assets of different countries
- 4 Market Entry - Designing a winning strategy
  - Map products and services to demand
  - Focusing on “high probability of success” areas
- 5 Social Media being an integral part of business
  - Learning from information-aware consumer
  - Controlling consumer perception
- 6 GUEST Lecturers (Will invite 2 or 3 CEO, investors and entrepreneurs)  
The above sessions may change depending on their schedule
- 7 Politics – Impacts of regulations and geo-politics
  - Policy changes can often create opportunities and challenges
  - Case studies such as island dispute with China
- 8 Core Assets – What can Japan compete with
  - What exactly are the differentiators
  - How do companies and individuals leverage it
- 9 Valuing a Business – Economic Performance for Investors
  - Valuation Methods
  - Understanding Financial Model
- 10 GUEST Lecturers (Will invite 2 or 3 CEO, investors and entrepreneurs)  
The above sessions may change depending on their schedule
- 11 Negotiation - With foreigners and your own people
  - Reading people and culture
  - Emotional competence and closing deals
- 12 Acquisitions – Another way to enter market
  - What to look for and what are typical mistakes made
  - Examples of successes and failures
- 13 Group 1 - 3: Presentation of Group Projects
- 14 Group 4 - 6: Presentation of Group Projects
- Other Group 7 - 9 : Presentation of Group Projects

成績評価方法:  
Class participation, in-class quiz and Group-Project and presentation at the end. NO final examination

担当教員から履修者へのコメント:  
ENGLISH is the language of instruction. Be prepared to participate in the class. Your opinion matters.

積極的に講義に参加する、意見を言うのは大事です、日本語でもOK。

## ヘルスケアポリシー 2単位(2学期)

無し

講師 田中 滋

### 授業科目の内容:

本科目は、ヘルスケア分野(主に医療・介護)にかかわる政策と制度の体系、およびそれらの機能を学ぶための科目です。医療と介護のシステムは、①サービス提供体制と利用方法、②住民にサービス利用を保障する社会保障制度と社会福祉制度、③サービス提供に要する費用を補填する報酬制度、の3項目から成り立っています。いずれも一国の社会・経済の安定を支える基盤としてもっとも重要な社会資本と位置づけられます。また、産業規模の大きさ、従事者人口の多さと今後の成長、この分野を支えるために住民が貢献する公的負担の額、次世代産業の技術シーズを生み出す可能性の高さなど、どれをとっても重い意味をもつ分野なのです。

人口の高齢化とともに、医療や高齢者ケアに対するニーズは増加の一途をたどる以上、医療や介護事業にたずさわる経営者、さらには生損保分野や業界に属するビジネスリーダーのみならず、一般の企業人も政策と制度にかかわる幅広い識見をもつことが必要となるでしょう。加えて、この分野で育ってきたハードの技術、制度資本を含むソフトの双方とも、国際的な展開が期待されています。授業では資料を基にした質疑と討論によって、上記を深く理解させるように進めていきます。

### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

### 成績評価方法:

クラス討論への貢献と期末レポートを同じウェイトで評価します。

### テキスト(教科書):

厚生労働白書2012年版:厚生労働省HPよりダウンロード可能。

後日変更があれば7月ごろ公開される上記3.のコースアウトライにて指示します。

その他に当方より資料を配布します。さらに必要な場合はダウンロード先を指定するので自分でアクセスしてください。

### 参考書:

さらに読みたい人のための参考文献

遠藤久夫・田中滋・西村周三編『医療経済学の基礎理論と論点』勁草書房2006

島崎謙治『日本の医療—制度と政策』東京大学出版会2011

西村周三監修, 国立社会保障・人口問題研究所編『日本社会の生活不安—自助・共助・公助の新たなかたち』慶應義塾大学出版会2012

### 担当教員から履修者へのコメント:

毎回の設問に答えられるよう予習に力を入れること。

1学期のヘルスケアマネジメント科目が密接に関係する隣接分野を扱います。

### 質問・相談:

アポイントメントはメールで [tanaka@kbs.keio.ac.jp](mailto:tanaka@kbs.keio.ac.jp)

## ベンチャーキャピタリスト養成Ⅱ 2単位(2学期)

講師 西戸 雄太

講師 村口 和孝

### 授業科目の内容:

なぜベンチャー企業は成功したり失敗したり一見不安定に見えるのか。起業経営は、従来の大企業組織型経営とどう違うのか。起業家はサラリーマンとどう違うのか。KBS卒業生がフェイスブックなど新事業に成功するための条件は何か。また前提として、新分野の事業活動、及び資本組織としての企業の創立と発展の本質を、どう理解すればよいか。技術革新スピードが早く、グローバルに、資本市場と結びついて劇的に変化する現代経済社会の中において、経済フロンティアを切り拓く創業ベンチャー企業を投資支援するベンチャーキャピタル(VC)の重要性が世界的に高まっている。

ところが金融機関の関係会社として1970年代にスタートした日本のVC産業は、これまで欧米に比べ創業支援の社会的機能を果たしてきたとは言い難い。投資事業有限責任組合法が施行になったころから、日本でも創業支援に重きを置く「クラシックVC」が登場した。その代表が、私が運営する日本テクノロジーベンチャーパートナー(NTVP、1998年創立)である。

投資先にはエクスペリアンジャパン、ジャパンケーブルキャストなどがある。成功ケースとして、携帯サービスのモバゲータウンやペイスターズ買収で話題となったDeNA(創業:南場智子)、XML応用ソフトウェア開発のインフォテリア、天然水宅配のウォーターダイレクト、調剤薬局のインファーマシーズ等を、創業から経営に関与し、数々の困難を乗り越え東証マザーズ等に上場させて来た。

本講座は、NTVPにおけるDeNAやインフォテリア、ウォーターダイレクト等のキャズムを超える創業支援体験を踏まえ、使用テキストの読み込みを軸に、ベンチャー会社立上げから、創業の試行錯誤の活動、そして商品発売から加工販売、決算作業など、経営の実態を総合的に理解する。またVCファンド設立契約実務、投資候補先の審査や、投資後の長期的関与の考え方と手法を、実体験を通じて学ぶ。

おそらく日本で初めての現場で活躍するベンチャーキャピタリストによる、キャズムを越えようとするベンチャー経営、ファンド設立、及び投資先支援、回収の実践講座である。ほぼ毎月数回づつ、上場ベンチャー起業家や、弁護士、会計士、司法書士、社労士などゲスト実務家を、随時招いて交流してもらう。

なお本講座は、座学のみでなく、講座の時間の中で、慶應大学理工学部・大学院(矢上)において毎年実施される会社創業体験プログラムの授業と連携して、チームに分かれてVCファンドを実際に創設運営し、VC役を担い、理工学部生・大学院生の矢上祭における模擬店など小事業に対し投資して実際に支援し、ファンドとしての成果を、競争して出してもらう。また、理工学部講義に参加して学部生・大学院生を指導する。その過程で、事業計画の評価や投資および小会社運営への関与の実践を通じ、会社経営およびVC投資活動を考察し、発表しあう。

また、今年はKBS自由科目の8月夏季集中スタートアップ創業体験プログラムの支援活動も授業の一部に取り入れる。さらにベンチャー企業訪問や株主総会出席、チーム活動および対外交流も行う。各々の体験から随時体験レポートを作成してもらい、理論だけでなく、株式会社運営実務と、創業ベンチャーが事業失敗や困難を克服してキャズムを超えていくダイナミックな事業プロセスを含む、トータルな会社経営成功観を、実感を持って身に付けてもらう。したがって真に経営実践および投資実践に興味を持つ、活動的で、能動的な時間を持つとする受講者のみを対象とする。受動的受講者には厳しく、また通年で受講することが望ましい。

また、講義が始まるまでに「アントレプレナーの教科書」(翔泳社)内容把握が条件で、その本の要旨を、4月中にレポートとして提出することが、受講の必須条件である。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

出席が基本である。それに授業中に出されるレポート提出、活動への取り組みの積極性等をもとに評価する。

#### テキスト(教科書):

NTVP作成の創業体験ノート、「アントレプレナーの教科書」(ステイブ・G・ブランク著、堤孝志/渡邊哲 訳、翔泳社)、「スタートアップ・マニュアル」(ステイブ・G・ブランク、ボブ・ドーフ/著、飯野将人/堤 孝志 訳、翔泳社)、「最強の起業戦略」(リチャード・ドーフ/トーマス・バイアース著、設楽 常巳 訳、日経BP社)、「日本のブルーオーシャン戦略」(安部 義彦、池上 重輔 著、ファーストプレス社)、「ビジネスモデル・ジェネレーション」(アレックス・オスターワルダー/イウロ・ビニョール著、小山龍介訳、翔泳社)、および、その他、ベンチャー 起業活動、ベンチャー経営に関する著書

#### 担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目:ベンチャーキャピタリスト養成I (1学期開講)

各授業の後で、専門家や起業家を交えた交流会を開く事が多いのが、参加すると、さらに教育効果が深まると思われるが、必須ではない。

## リスクマネジメントと危機管理 2単位(2学期)

講師 指田 朝久

#### 授業科目の内容:

※科目のねらい・目標

リスクマネジメントと危機管理に関する標準規格に則った基本的考え方を身につける

※授業で扱う領域

企業は商品やサービスを社会に提供し適切な対価を得て継続的に発展することを目的としている。しかし東日本大震災などをはじめとする企業の目的の達成を阻害する様々な災害や事故などの事象が発生し、場合によっては企業の存続が不可能となる。このような事象を組織として未然に防ぐリスクマネジメントと、万が一発生した場合でもその影響を最小限に留める危機管理について学ぶ。リスクマネジメントに関する標準規格の考え方を学ぶとともに、モデル企業を例に企業のリスクマネジメントシステムを毎回の授業で行う演習により構築していく。また、企業の事件や事故の対応事例をケースメソッドやクロスロードなどのゲームを用いて分析していく。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

期末レポート 60%、授業へ参加寄与度 40% (出席および宿題の提出を含む)

#### テキスト(教科書):

リスクマネジメントがよくわかる本第2版 東京海上日動リスクコンサルティング株式会社著

秀和システム 2200円+消費税

ISBN978-4-7980-3288-7

#### 参考書:

ケースブックあなたの組織を守る危機管理

危機管理研究会編著

ぎょうせい 5000円 (消費税込み)

ISBN978-4-324-09258-3

#### 担当教員から履修者へのコメント:

日々の企業や組織の事件や事故の報道に関心を持って考える習慣を身につけて下さい。

## ロジスティクス論 2単位(2学期)

"Business Logistics"

Language of instructions: English

伊勢丹 KBS チェアシップ基金寄附講座

特任教授 (非常勤) プラート, カロラス

#### 授業科目の内容:

Since the advent of Japan as one of the world's top economic powers during the latter part of the twentieth century, academic and journalistic interest has focused on uncovering and explaining the characteristics of Japanese corporate business and marketing methods. Especially during the 1980s and 90s, many experts sought to unravel the secrets behind the success of Japanese marketers in foreign markets and tried to explain the peculiarities of the Japanese market to foreign marketers. In spite of a recent shift of attention from Japan to China—as a result of the economic ascendancy of China on the one hand and the relative decline of the Japanese economy on the other—Japan remains one of the world's largest and most sophisticated markets and remains a very important but difficult market for many foreign marketers.

In this course we will take an in-depth look at relevant characteristics of marketing, distribution, advertising, and consumer behavior in Japan. Our primary focus will be on the characteristics of Japanese consumers, how these characteristics have evolved over time, and how consumer behavior affects the various aspects of corporate marketing strategies and tactics of both Japanese and foreign companies operating in the Japanese market. This course will show that in the 21st century the characteristics of Japanese marketing and consumer behavior continue to evolve and constitute a moving target for domestic and foreign-affiliated companies alike.

The course is organized around student presentations and class discussion of key readings from the relevant academic and trade literature. In addition, we will read and discuss a number of cases that will illustrate how both foreign and Japanese companies have dealt or are dealing with the peculiarities of the Japanese marketing environment. Students will work in groups to present the readings and cases. In each session, a different group will present the readings for that session. The group in charge of presenting will prepare presentation handouts for all participants. The instructor will moderate class discussions, conduct mini lectures, answer questions and provide additional explanations to put the readings and cases into a larger perspective.

At the end of the course, participants will individually submit a report in which they critically discuss and synthesize the readings. Readings, presentations, class discussion and the final report will be in English.

#### 授業の計画:

Please refer to course outlines which can be found in KBS student's page.

#### 成績評価方法:

Class participation (individual): 20%

Presentations (group): 35%

Final report (individual): 45%

#### 参考書:

1) Fields, George (1985) From Bonsai to Levis: When West Meets East: An Insider's Surprising Account of How the Japanese Live; 2) Fields, George; Katahira, Hotaka; Wind, Jerry; Gunther, Robert E. (1999) Leveraging Japan: Marketing to the New Asia; 3) Haghiriyan, Parissa; Toussaint, Aaron (2011) Japanese Consumer Dynamics; 4) Mooney, Sean (2000) 5,110 Days in Tokyo and Everything's Hunky-Dory-The Marketer's Guide to Advertising in Japan; 5) Herbig, Paul (1999) Marketing Japanese Style; 6) Johansson, Johnny K; Nonaka, Ikujiro (2000) Relentless: The Japanese Way of Marketing; 7) Kotabe, Masaaki; Czinkota, Michael R. (1999) Japanese Distribution Strategy: Changes and Innovations.

企業戦略における技術と社会的インパクト 2単位(2学期)

"Strategic Management with Social Impacts"

Language of instructions: English

国際単位交換プログラム設置科目

教授 岡田 正大

授業科目の内容:

1. Overview

Stimulated by the D-Lab\* concept, this course examines how for-profit firms can realize social impacts throughout their core businesses, not through charitable activities, while securing enough economic returns to satisfy investors. The field of interest is so-called the "Base of the Economic Pyramid (BOP)" in Asia and Africa. Businesses at the BOP are often called "inclusive business."

Students who are interested in either business opportunities at the BOP or the possibilities for forprofit firms to be engaged in realizing both social impacts AND economic performance are strongly encouraged to be enrolled in this course.

After surveying basic strategy theories relevant to the "BOP strategy" or "inclusive business strategy," several topics especially pertinent to the BOP will be covered with guest speakers. Those topics include, but not limited to:

- The concept of "shared values" by Porter and Kramer (2006 and 2011)
- the concept of "appropriate technologies" and "reverse innovation"
- the current status of telecom and internet at the BOP market
- the concept and history of "social development"
- the current trend of so-called "social financing", which include micro-finance

2. In-class projects

The class will be divided into several teams and each team will be engaged in a consultation project which deals with new business strategies at the base of the pyramid market. Each team will present a business proposal at the end of the course.

3. Evaluation

50%: class contribution, 50%: project/presentation

\*D-Lab is a program at the Massachusetts Institute of Technology (MIT) that fosters the development of appropriate technologies and sustainable solutions within the framework of international development. D-Lab's mission is to improve the quality of life of low-income households through the creation and implementation of low cost technologies. D-Lab's portfolio of technologies also serves as an educational vehicle that allows students to gain an optimistic and practical understanding of their roles in alleviating poverty through business activities.

授業の計画:

To be delivered in the course outline section of KBS web site.

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

class participation 50% and group projects 50%

テキスト(教科書):

Hart SL. 2007. Capitalism at the Crossroads: Aligning Business, Earth, and Humanity.

Pearson Education Inc. : Upper Saddle River, NJ.

参考書:

Hart SL, Christensen CM. 2002. The great leap: driving innovation from the base of the

pyramid. MIT Sloan Management Review 44(1): 51-56.

London T, Hart SL. 2004. Reinventing strategies for emerging markets: beyond the transnational model. Journal of International Business Studies 35: 350-370.

Porter ME, Kramer MR. 2006. Strategy & society: the link between competitive advantage and corporate social responsibility. Harvard Business Review December 2006: 1-13.

経営科学と意思決定 2単位(2学期)

"Management Science and Decision Making"

Language of instructions: English

国際単位交換プログラム設置科目

准教授 安道 知寛

授業科目の内容:

This course combines lectures and case studies. Course objectives are to understand qualitative judgment frameworks and to bridge the gap between the frameworks and their practical use. By the end of the course, you will learn the basic concepts of qualitative judgment frameworks.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Class attendance, Report (Tentative)

テキスト(教科書):

None.

参考書:

None.

担当教員から履修者へのコメント:

Details of class format is explained at the first class.

日本におけるマネジメント・コントロール 2単位(2学期)

Management Control in Japan

Language of Instruction: English

講師 (非常勤) ガルシア, クレマンズ

授業科目の内容:

■ Course Description

This course focuses on management control and cost accounting in Japanese companies. After studying the mainstream cost accounting practices in the last few decades, we will focus on modern issues in management control through some selected academic contributions.

■ Course Objectives

After taking this course, students should reach a better understanding of business practices in Japanese companies, in particular:

- The role of target costing and its importance in TPS;
- How cost accounting is used for the purpose of production planning and in-process management control in the JIT system;
- Recent changes in large businesses due to globalization issues.

授業の計画:

Please refer to course outlines which can be found in KBS student's page.

成績評価方法:

Course Grading Criteria/ Maximum points

A. Class Participation /200

B. Short Essay /500

C. Presentation /300

Total maximum points /1000

テキスト(教科書):

Required Material

TBA

質問・相談:

E-mail: garcia@rikkyo.ac.jp

医療経済学 2単位(3学期)

Health Economics

教授 姉川 知史

授業科目の内容:

医療は、国民の生死、健康にかかわる重要な課題である。医療市場は先進各国でGDPの10%を超える規模であり、巨大かつ多くの関係者がかかわる複雑なシステムである。ところが、医療には多様な利害の対立、マネジメントの課題が多く、所定の目的(健康の増進)を、効率的、効果的に行うためには、大きな制度設計が迫られている。他方、人口高齢化、人口減少を控える日本を代表とする先進国では、いかに医療費を抑制しつつ、健康を増進するかという課題に直面する。

このような医療の分析、評価、解決においては経済学が重要な役割をはたし、医療経済学(health economics)とよばれる専門教育が世界各国で急拡大している。

この科目では、この医療経済学を基礎にして、医療に関する経済学分析を概観し、医療の政策とマネジメントに応用する方法を検討する。

科目を2つの柱で構成する。第1は、下記の題材を中心に、講義を行う。第2は、プロジェクト研究を行う。そこでは医療における特定の具体的な題材を取り上げ、学生チーム単位に調査研究し、外部専門家の講演と助言を組み合わせ、具体的な提言を行う。プロジェクト課題は、地域医療、病院管理、医療技術、高齢者医療等の多様な領域から選択する。

#### 授業の計画:

<本稿は2014年2月作成のもので、最新の内容を反映していない。これは記入システムが、学年開始前に確定すると、途中での修正ができないためである。最新の直近の内容は、以下の方法で参照してください。

1. KBS在校生は、在校生向けページに掲載するコースアウトラインを参照ください。
2. KBS在校生ならびに他研究科の学生その他は担当講師のHPを参照ください。 <http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>

1. 医療システムの概要：日本の社会保障制度概説、資金循環
2. 医療の経済的特徴、情報の非対称性、医療需要、医療供給者誘発需要
3. 医療サービスの経済的評価の方法と実証：CBA, Conjoint, Hedonic Pricing, WTP, QALY
4. 医療と技術：Health Technology Assessment 医療のITC
5. 情報と医療：情報の不確実性、Principal agent, Moral hazard, Asymmetry
6. 医療保険：公的保険と私的保険
7. 医療の価格と需要：診療報酬の役割
8. 人的資源： 医師、看護師、技師、その他の人的教育と労働市場とマネジメント
9. 物的資源： 設備投資と資金調達とマネジメント
10. 社会的共通資本と医療の公共性
11. 医療と意思決定
12. 規制の経済学とマネジメント
13. 人口、高齢化、地域経済学 Smart City
14. マクロ経済学と医療—GDP, 医療費, 社会保障費
15. 医療費の経済分析—計量経済学
16. 医療の関連産業：医療機器, 福祉機器, 国際福祉機器展見学
17. 医療の関連産業：医薬品
18. 国際比較1 先進国
19. 国際比較2 開発途上国
20. 幸福の計量経済学
21. 地域医療
22. 危機のマネジメント 震災と医療
23. 放射線と安全
24. 因果関係と疫学

#### 成績評価方法:

授業参加40%、宿題・レポート60%

グループ・プロジェクトも可、要相談

#### テキスト(教科書):

Pindyck and Rubinfeld Microeconomics 8/e, 2012 PrenticeHall, ポール G.ホーエル(著), 浅井 晃(翻訳), 村上 正康(翻訳)『初等統計学』培風館; 第4版, 1981. いずれも生協で入手可能

#### 参考書:

講師のHP該当箇所参照 <http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>

#### 担当教員から履修者へのコメント:

関連する前提科目: 経済理論I, 経済理論II, 統計学入門

#### 質問・相談:

授業後の30分あるいは講師e-mail

## 企業倫理 2単位(3学期)

企業倫理

商学部准教授 梅津 光弘

#### 授業科目の内容:

##### 目的:

この授業では、企業倫理学の概説を行いながら、組織経営における倫理的課題事項、倫理的組織作りの戦略、制度、手法、展開方法

などを学ぶ。また個人が仕事や人生に対する哲学的、倫理的な考え方を深め、それと企業理念や価値観、ビジョンなどを確認する場にしていきたい。

この分野は哲学的な方法論から実務直結の話題まで多岐に渡るが、不祥事などを起こさないコンプライアンスの側面、善悪の判断についてジレンマや課題がある領域、さらにはCSR論との関係で積極的な社会貢献やCRM, SRI, BOPなどの様々な手法の分野をカバーすることが可能である。

授業は基本的に講義とケース・メソッドを併用して進めていく。最初の時間に参加者の問題意識と要望を聞きながら、私の扱える範囲内での調整を行いながら進めていきたい。哲学や倫理学を履修したことのない諸君も、このコースでは簡潔に規範倫理学の諸説を学べるので、予備知識は必要としない。

#### 教育方法:

「ハーバードのケースで学ぶ企業倫理」リン・シャープ・ペイン著(慶應義塾大学出版会)を使用して、誠実な組織を構築する方法、戦略と倫理との関係、企業倫理の制度化とその管理・運営、を中心に講義を進めていく。ただし参加者の要望があれば教科書以外のショートケースを使用する場合がある。最初の時間にその点の確認を行いたい。

#### 授業の計画:

[主題]

[ケース]

- 第1回  
イントロダクション
- 第2回  
組織における倫理の役割……………インスピーチ社
- 第3回  
顧客関連の企業倫理……………シアーズ自動車センター
- 第4回  
コンプライアンス型の企業倫理……………マーティン・マリエッタ社
- 第5回  
価値共有型の企業倫理……………AES社の蜂の巣システム
- 第6回  
企業と情報倫理……………ロータス・マーケットプレイス
- 第7回  
製品の安全性……………ダウ・コーニング社
- 第8回  
多国籍企業の倫理問題……………リーヴァイス社
- 第9回  
日本企業に於ける倫理的課題事項(1)……………TBA
- 第10回  
日本企業に於ける倫理的課題事項(2)……………TBA
- 第11回  
日本に於ける専門職・技術職の倫理的課題事項……………TBA
- 第12回  
企業倫理・コンプライアンスの制度化
- 第13回  
企業倫理・CSRの制度化と実践
- 第14回  
まとめと総括(期末試験の可能性あり)

#### 成績評価方法:

- ・試験  
(理論紹介が終わった時点で進行。形式は後日指示) 30%
- ・期末レポート  
(具体的なケースとその分析、政策提言, A4×10) 50%
- ・クラス参加度 20%

#### テキスト(教科書):

「ハーバードのケースで学ぶ企業倫理」リン・S. ペイン著(慶大出版会, 1999)

「ビジネスの倫理学」梅津光弘著(丸善 2002)

#### 参考書:

「企業倫理と経営社会政策過程」E. エプスタイン著(東京:文真堂, 1996)

「企業倫理」D. ステュアート著 企業倫理研究G訳(東京:白桃書房 2001)

「企業倫理学2」T. ビーチャム, N. ボウイ著 梅津光弘監訳(京都:晃洋書房, 2001)

Thomas Donaldson, Pat Werhane. Ethical Issues in Business. Prentice Hall, 1994.

Tom Beauchamp, Norman Bowie. Ethical Theory and Business. Prentice Hall, 1993.

このほか参考資料は教室でその都度紹介する。

#### 担当教員から履修者へのコメント:

期末レポートについては、初回の授業で詳しく説明しますので、必ず出席してください。

#### 質問・相談:

特にオフィス・アワーなどは設けませんが、質問や相談があれば授業の前後に気軽にお声がけください。

### 競争戦略論 2単位(3学期)

教授 小林 喜一郎

#### 授業科目の内容:

※科目のねらい・目標: ケースメソッドのみでは不足しがちな企業及び事業戦略に関する「理論」を学ぶ。これによってMBAとしてふさわしい理論ベースを習得すると同時に、理論を現実へ適応(一般化)するための応用力を養う。

※授業で扱う領域: Strategic Managementに関わる理論全般。戦略の基礎理論のみならず、特にイノベーション・マネジメントに関する理論も網羅する。

※履修者に対する担当教員からの要望: 主に理論を学ぶ授業ではあるが、現実への適応も含めインタラクティブな授業を目指しているため、積極的な意見開示やプレゼンテーションに参加していただきたい。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

①発表とクラス貢献度、②期末レポート、③グループ発表成果、④出席

#### テキスト(教科書):

①ビジャイ・ゴビンダラジャン&クリス・トリンブル著「リバース・イノベーション」(ダイヤモンド)、②チャン・キム&モボルニウ著「ブルーオーシャン戦略」(ランダムハウス講談社)、③ジェフリー・ムーア著「ライフサイクルイノベーション」(翔泳社)

#### 参考書:

\*興味のある方への関連図書として、バーゲルマン、ウィールライト、クリステンセン「技術と戦略のイノベーションマネジメント」(翔泳社) …担当教員ケースも収録

#### 担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: 総合経営(基礎科目)・戦略コンサルティング講座(小林・岡田)・経営戦略におけるアントルプレナーシップ(須賀: IP)

### 金融機関経営 2単位(3学期)

准教授 齋藤 卓爾

#### 授業科目の内容:

本コースでは、企業経営者・財務担当者、あるいは財務アドバイザーに不可欠な企業財務(コーポレート・ファイナンス)に関する理論と実践的な知識を身につけることを目指します。(科目名は「金融機関経営」ですが、内容はコーポレート・ファイナンス、企業財務であることに留意して下さい。)具体的には新規株式公開、ペイアウト、敵対的買収、垂直統合、ペイアウトなどについて講義とケースを通して検討していきます。基礎科目である「財務管理」で齋藤が担当した部分の応用編と考えて下さい。本クラスでは「財務管理」とは異なり、海外の事例も取り扱います。M&Aなどを通して多くの日本企業が国際化を進めると同時に外国人投資家が日本企業の株主として大きな影響力を持ち始めた現在において、海外の事例を学ぶ意義は極めて大きいと考えられます。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

主に授業への貢献、ケース分析

#### テキスト(教科書):

なし

#### 参考書:

適宜紹介します

#### 担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: 「財務管理」「日本証券市場論」

### グランド・デザイン・プロジェクトII 2単位(3学期)

Grand Design Project 2

教授 姉川 知史

教授 渡辺 直登

#### 授業科目の内容:

本科目はプロジェクト・フォーラム教育を行う。

本科目は「グランド・デザイン策定の融合型教育」(HP参照)に参加する学生のうち、研究科の単位履修を希望する学生を対象とした科目であり、2学期「グランド・デザイン・プロジェクトI」と、3学期「グランド・デザイン・プロジェクトII」によって構成される。1科目のみでも履修可能である。

本科目の母体となるプログラム「グランド・デザイン策定の融合型教育」は2010-2011年度に「慶應義塾創立150年記念未来先導基金プログラム」として開始された、「グローバル・ビジネス・フォーラムによる日本のグランド・デザイン策定を行う融合型実践教育」を継続するものであり、2014年度はその5年目を実施する。

このプログラムでは、日本と世界が直面する重要課題を選択して、その解決策、提言を行うためのグランド・デザイン策定を目的とする。そこでは、専門領域横断的、世代縦断的融合教育を実施し、プロジェクト教育、フォーラム教育の2つを実施する。

このプログラムの当研究科における科目を、以下の内容によって構成する。

1. 研究方法論講義 問題発見, 問題設定, 研究手法, 論文の書き方, 発表方法等
2. プロジェクト・プログラム・マネジメント教育(Project & Program Management Seminar)
3. フォーラム講義 専門家によるフォーラム講義 (毎月1回)
4. プロジェクト研究

履修要件: 「グランド・デザイン策定の融合型教育」プログラムについては5月に説明会を行い、プログラムへの参加申請を受け付ける。グランド・デザイン・プロジェクト1科目については、7月に履修申請を行う。

ここで3の一環として、7月週末に3日間集中セミナーProject& Management Seminar for the Grand Designを実施するので、本科目の履修予定者はこのセミナーに参加することを予め薦める。詳細は個別に相談。

グランド・デザイン・プロジェクト1で実施したプロジェクト、あるいは、他の科目等で実施したプロジェクトを継続実施する。

#### 教育上の利点

1. 重要課題について、学生が自ら問題設定し、調査研究を行い、発表提言する機会
2. 課題チームにおけるプロジェクト・マネジメントの経験
3. 課題検討のフォーラムの企画、マネジメントの経験
4. 塾内外の教育資源へのアクセス、調査研究費の使用

学生の関心を反映した特定のプロジェクト課題を1つ設定し、研究科内外の学生、社会人、数人のチームを形成し、プロジェクト研究を行い、報告書を作成し、具体的提言を行う。プロジェクト課題としては、例えば「スマートシティ評価」、「エネルギー産業」、「開発途上国向けビジネス」、「都市再生」、「農林水産食品加工業」等がある。

#### 授業の計画:

<本システムは学年途中の修正ができないため、最新版は次を参照してください。>

1. KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。
2. また、KBSならびに他研究科の学生は講師のHPを参照ください。  
<http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>

1-4 Forum 討議1(1月実施)  
5-8 Forum 討議2(2月実施)  
9-12 Forum 討議3(3月実施)  
13-20 教育方法論, プロジェクト報告・指導授業

#### 成績評価方法:

評価基準: 授業参加, フォーラム参加, プロジェクト・レポート

#### 担当教員から履修者へのコメント:

グランド・デザイン・プロジェクト1, 2は「グランド・デザイン策定の融合型教育」プログラムに参加する学生で, 単位履修する学生のために提供する。本体プログラムについては, HPを参照のこと。

[http://anegawa.kbs.keio.ac.jp/Grand\\_Design\\_Project/index2.html](http://anegawa.kbs.keio.ac.jp/Grand_Design_Project/index2.html)

本プログラムの過去のフォーラム配信記録

<http://www.ustream.tv/channel/keio-grand-design/videos>

#### 質問・相談:

本科目ならびにグランド・デザイン策定の融合型教育は文章による説明だけではわかりにくい。このため, オリエンテーションを行うので希望者は参加してほしい(日程と場所はHP参照 <http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>)。また, フォーラムについては, 科目履修のプレイベントを, 2014年2月23日, 3月15日, 7月の3日間集中セミナーを予定している(場所は協生館5F, エグゼクティブ・ルーム)。7月には3日間集中のセミナーを実施する。

### 経営革新 2単位(3学期)

小竹 林二 KBS チェアシップ基金寄附講座

特任教授(非常勤) 網野 俊賢

#### 授業科目の内容:

ますます激化する国際競争の中で, 企業は常に経営に於ける革新性を維持しながら発展し, あるいはサバイブして行くことが求められています。

本科目では日本を代表する多国籍企業の一つであるホンダを取り上げ, 創業以来さまざまな局面で革新性を発揮して来た事例を, 同社の業務分野を横断的に見るケース・スタディーとして捉えようとするものです。

企業がどのような過程で経営革新を生み出すのかを知る為には, その企業の経営哲学や文化・価値観などを深く理解し, さらに企業活動のあらゆる領域で革新的なビジネスモデルを実現させて行くエネルギーの強さと源泉, そのプロセスなどを知る必要があります。本科目ではホンダのさまざまな業務分野, 特に北米, 欧州, アジアなどの海外展開で活躍し, 豊富な経験を持つ人材を毎回の講師として招き, 事例をベースに経営革新が起きる過程を学ぼうとします。

授業に当たっては各講師からのプレゼンテーションを題材としながら履修生からの質問や, 各自が持つ実務体験を踏まえたコメントなどを歓迎し, 双方向のやりとりを尊重します。また講師の体験を反映して執筆されたケースについての討論, 履修生のグループ発表に加え, 数人の講師を交えたパネル討議も行うことによって立体的な授業の展開を図りたいと思っています。

#### 授業の計画:

毎週1日の授業, 1日に2回 全9週

- 第1回 ホンダの概要, 経営革新の軌跡
- 第2回 同上
- 第3回 北米生産進出
- 第4回 北米生産での人事改革
- 第5回 カナダへの生産進出 ケース討議
- 第6回 同上
- 第7回 生産子会社での経営革新
- 第8回 中国での事業展開
- 第9回 自動車メーカーにおけるエンジニアリングの役割
- 第10回 経営革新とは何か グループ討議
- 第11回 ホンダ グローバル調達
- 第12回 ケース討議 海外部品メーカーの異文化経営
- 第13回 新規事業への参入形態
- 第14回 国際ビジネスにおける異文化経営

第15回 経営革新とは何か 講師団によるパネル討議

第16回 同上

第17回 まとめ

第18回 最終論文完成

#### 成績評価方法:

期末提出論文 70点 授業貢献度 30点(詳細は第1回授業で説明)

#### テキスト(教科書):

なし

#### 参考書:

授業の都度説明

#### 担当教員から履修者へのコメント:

この科目の授業は「経営革新とは何か」ということを, 皆さんに教えると言うよりは, ホンダにあって革新性の高い経営を実践して来た幹部が, 自らの経験を語り, 履修生と議論することで「経営革新とは何か」について皆さん自身で考えて貰うことを目的とします。興味深い授業展開を図って行きます。

### 経営法学Ⅱ 2単位(3学期)

講師 一色 正彦

#### 授業科目の内容:

・学習目標

本科目では, 事業経営に必要な法分野(会社法, 独占禁止法, 特許・商標・意匠・著作権法, 契約法)について, 法律の価値とリスクを理解した上で, 有効に活用する方法論(コンプライアンス, リスクマネジメント, 交渉学)を学ぶ。具体的には, ①リーガルリスクの理解と実践的マネジメント(リーガルリスク・マネジメント), ②知的財産の価値とリスクを理解した有効活用(IPマネジメント), ③論理的に準備し, 心理的な壁を乗り越えた問題解決のための交渉(ビジネス・ネゴシエーション)の3分野について, 実際に発生した事例に基づき, なぜ, その問題が発生したか, どのような問題解決の選択肢があったのか, そして, 同様の問題に対して, 実際に先進企業がどのように対応しているかについて, 講義と演習により理解する。これらを通じて, 受講者が, 今後, 経営を担う立場として, 弁護士・弁理士等の法律の専門家を有効に活用して, 事業の成功確率を上げる能力を身に付けることを目標とする。

#### ・概要

2セッションで1主題を基本とし, 毎回, グループ演習によるケーススタディーを行なう。前半は, 主題に関する前提知識の講義を行なう。後半は, グループ単位で, 具体的な課題に対する議論を行なう。その後, 各グループが検討結果を発表し, その内容に対して, 講師と受講生がインタラクティブに議論する。主題により, 特定法分野の実務家(企業経営者, 法務・知財マネージャー, 弁護士・弁理士等)が議論に参加する。全セッションを通じて, 8ケースを学習する。そのうち, 3ケースは, ロール・シミュレーション(1対1, 2対2による模擬交渉)を行なう。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

課題レポート(1回)と授業貢献。

課題レポートは, 主題の中から特定分野, または, 全体について, 論述する。授業貢献は, グループ演習のメンバーによる相互評価(クロス・エバリュエーション)で行なう。クロス・エバリュエーションは, グループ演習の課題検討に貢献できたか否かの自己評価, 他のメンバーの貢献者(1名)を理由と共に記載する方法で行なう。本科目は, 議論が中心であり, 積極的な授業貢献は高く評価する。

#### テキスト(教科書):

特に指定教科書はないが, 各主題毎に, 推薦図書リストを当日配布する。

#### 担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: 経営法学I (Business Law I)

### 財務報告分析 2単位(3学期)

教授 太田 康広

#### 授業科目の内容:

本コースでは, ビジネスに必要な情報を財務諸表から読み取る能力を身に付けるため, 財務諸表分析と企業価値評価の手法を習得し, その応用事例を議論する。

今年、ROE（自己資本利益率）やROA（総資産利益率）、酸性比率、流動比率といった財務指標の分析方法のほか、効率的市場仮説、資本コストの計算方法、さらに、割引キャッシュ・フロー・モデルや残余利益評価モデルのような企業価値評価モデルについても講義する予定である。さらに、いわゆる「実証会計理論」の3つの仮説（経営者報酬仮説、財務制限条項仮説、政治コスト仮説）を説明したあとに、アクルーアルと利益マネジメントについての最近の研究にも触れる。

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

**成績評価方法:**

発言点10パーセント、宿題30パーセント、クラス発表30パーセント、レポート30パーセント。

**テキスト(教科書):**

なし

**参考書:**

K. R. Subramanyam and John Wild, Financial Statement Analysis, McGraw-Hill/Irwin 10th edition, May 19, 2008.

Stephen H. Penman, Financial Statement Analysis and Security Valuation, 3rd edition, McGrawHill, 2007

**担当教員から履修者へのコメント:**

全員が履修済みの基礎科目・会計管理の知識を前提とする。

---

**財務理論 2単位(3学期)**

准教授 高橋 大志

**授業科目の内容:**

企業は、資金調達や投資などの意思決定などにおいてマーケットと適切に向き合っていく必要がある。本講義では、企業活動において主要な役割を果たすマーケットに焦点をあてた議論を行う。講義を通じ、経営者や財務プロフェッショナルとして最適な意思決定を行うために不可欠なマーケットにおいて取引されている金融資産の評価についての理解を深めることを目的とする。はじめに、代表的な金融資産である債券や株式に関する評価方法およびその応用事例について議論したのち、派生証券の評価方法およびその応用事例等について議論する。

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

**成績評価方法:**

小テストおよびレポートを基に評価を行う。

**テキスト(教科書):**

『金融工学入門』デービッド・G.ルーエンバーガー,日本経済新聞社, 2002.

**担当教員から履修者へのコメント:**

関連する科目として、「財務管理」などがある。

財務理論においては、マーケットに関する専門的知識を深めることを目的とする。

---

**産業経済分析:ライフサイエンス産業 2単位(3学期)**

教授 中村 洋

**授業科目の内容:**

産業経済分析: ライフサイエンス産業  
ライフサイエンス産業は今後大きな成長が見込まれる有望な産業の一つです。講義の目的は、以下の3点です。

- ①今後ライフサイエンス産業に関わるかもしれない多くの人に興味を持ってもらうこと **(産業構造の把握)**
- ②大きく変化するライフサイエンス産業の現状を理解すると共に今後の方向性を把握すること **(企業・産業の発展)**
- ③ライフサイエンス産業の様々な分野でKSF(主要な成功要因)を導き出すこと **(企業の戦略、マネジメント)**

これらの目的を達成するために、**文系出身者でも理解できるように**ライフサイエンスに関する基礎知識(研究をするレベルではなく、ビジネスを行うレベルで知識)に関する講義、今後のライフサイエンス・ビジネスの展開についてのケース、ライフサイエンス産業の最前線で大きな革新を行いつつある企業のケース討論を行います。

これまでライフサイエンスに関係がなかった方も、今後ライフサイエンスに関係する仕事をする可能性は高いと思われます。他分野の人にとって、多くの専門的知識を要するライフサイエンス産業は参入障壁が高いですが、この講義において基本的な知識、ライフサイエンス分野でのKSFを把握することで、自分にとっての参入障壁を低めることが出来るだけでなく、参入障壁があるために有能な人材がなかなかいないこの分野で自身の競争優位を築くことが出来ます。

取り扱うテーマは下記になります。

- ① 大手医薬品企業における企業戦略
- ② 外部環境変化に対応するための組織変革
- ③ バイオテクノロジー企業における企業戦略/マーケティング
- ④ R&Dマネジメント
- ⑤ ベンチャー企業経営/エクイティファイナンス
- ⑥ ツール系企業/医療機器の企業戦略、研究開発戦略、マーケティング
- ⑦ 情報系企業の企業戦略

最後に、ライフサイエンス産業における企業の戦略、マネジメントに関しては、基礎科目あるいは他の専門科目で学んだことを活用して、考察してください。活用可能なコンセプトの例としては、以下のものが挙げられます。

マトリックス組織、BSCと戦略マップ、ヴァーチャルCOE(メタナショナル)、SCPロジック、RBV、Diversity Management、AIDMA、ニッチ市場

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

**成績評価方法:**

授業貢献(50%)、グループ・個人研究(50%)

**テキスト(教科書):**

なし

**参考書:**

中村洋『ライフサイエンス産業経済分析—経営と政策の共進的發展—』(慶應義塾大学出版会、2009年)

---

**市場戦略論 2単位(3学期)**

准教授 山本 晶

**授業科目の内容:**

情報技術の発展に伴い、企業活動のあらゆる側面において、インターネットが重要な役割を果たすようになってきている。この授業では市場戦略実行手段としてのマーケティング、なかでもインターネット・マーケティングをとりあげ、市場環境の理解と戦略の策定を学習する。

前半の授業は講義とディスカッションによって進める。後半のグループ・アサインメントでは、具体的な企業のインターネット関連の課題に取り組み、マーケティング戦略や事業戦略の策定を行うことによって、実践的なスキルを身につけることを目指す。

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

**成績評価方法:**

授業貢献、レポート、グループ・アサインメントから総合的に評価する。

**テキスト(教科書):**

特になし

**参考書:**

適宜紹介する。

---

**消費者行動 2単位(3学期)**

准教授 坂下 玄哲

**授業科目の内容:**

企業がマーケティング戦略を効果的に展開してゆく上で、市場に対する適切な理解を深めることは、これまで以上に重要な問題となっている。本講義では、特に消費者行動の多様性という側面に焦点を当て、消費者行動の内的・外的要因という視点から、理論的、実践的検討を加える。具体的な授業形式(予定)としては、①講義および事例検討、クラス内演習や文献購読、ケース討議などを通じ、購

買意思決定をはじめとする消費者行動を解明するためのさまざまなアプローチやキー概念について理解する。その上で、②具体的なテーマに沿ってグループ単位でプロジェクトを実施し、消費者行動に関する実践的理解を深めることを目指す予定である。なお、講義内容やスケジュールは変更の可能性がある。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

出席や授業内発言、ケース討議やプロジェクト報告をベースに総合的に評価します。

#### 参考書:

杉本徹雄編著『消費者理解のための心理学』、福村出版、1997年など

### 情報と意思決定 2単位(3学期)

教授 大林 厚臣

#### 授業科目の内容:

当科目の狙いは、主として企業経営の場面において質の高い意思決定をするための参考になることです。内容としては、意思決定の理論と手法の紹介、情報の有効な利用、事例を用いた意思決定の演習などが含まれます。

意思決定の研究を大別すると、オペレーションズ・リサーチや経済学などで中心的な、「どのように意思決定をすべきか」という規範的アプローチと、認知科学や心理学などで中心的な、「人は実際にどのように意思決定をしているか」という記述的アプローチに分けられます。当科目では主として規範的アプローチを用いますが、学問領域にこだわらず、意思決定に役立つと考えられる内容を多面的に紹介します。

具体的な内容は次のようなものです。

意思決定の構造とモデル。規範的アプローチである合理的意思決定の特徴と限界。企業経営における意思決定の特徴や、コーポレート・ガバナンスの問題。

ゲーム理論とその経営戦略への応用、信用形成、コミットメントなどへの含意。通常はそれぞれ別の理論として紹介される、交渉理論、探索理論、競争市場理論を、統一した枠組みで比較検討します。インセンティブとエージェンシー理論。

人間のリスクに対する態度、企業におけるリスクマネジメントや危機管理、社会の防災に関する課題。リスクマネジメントおよびリーダーシップに関する意思決定の演習。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

授業中の貢献と期末レポートを、それぞれ50%のウエイトで評価します。レポートは授業で扱う視点や理論のどれかを選んで、自分の興味があるテーマに応用して書いてもらいます。

#### 参考書:

授業用のレジュメを配布します。レジュメは、各回のレクチャー(L) クラスに持参して下さい。

### 人材・プログラムアセスメント 2単位(3学期)

准教授 林 洋一郎

#### 授業科目の内容:

本講義は、組織における個人や集団の「行動」について論じます。組織行動(organizational behavior)と関連の深い講義といってもよいでしょう。組織における個人や集団の行動を解明するにあたっては、伝統的に社会心理学や産業・組織心理学の理論が適用されてきました。個人がある行動を起こすのはなぜか、またその行動はどのようなプロセスやメカニズムによって発動されるのかについて、種々の理論や考え方が提案されてきました。本講義は、こうした組織内の個人や集団の行動に関連する心理学的な理論を中心に学んでいきます。本講義で取り上げるトピックは、例えば、ワーク・モチベーション、リーダーシップ、グループ・ダイナミクス、ストレス、キャリア発達、意思決定、組織風土などです。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

出席+授業貢献点: 30%、アサインメント: 30%、期末レポート: 40%

#### テキスト(教科書):

伊波和恵・高石光一・竹内倫和編著 「ストーリーで学ぶマネジメントの心理学:働くことを科学する(仮題)」 2014年4月刊行予定 ミネルヴァ書房

#### 参考書:

Robbins, S., P., & Judge, T. A. (2014). Organizational Behavior 16th Edition, Prentice Hall College.

Levy, P. E. (2012). Industrial/Organizational Psychology: Understanding the Workplace 4th Edition, Worth Pub.

#### 担当教員から履修者へのコメント:

アカデミックな理論と受講生の皆さんが培ってきた実践知に基づく理論が融合できることを目指したいと思います。

#### 質問・相談:

講義終了後やe-mailでアポイントメントをとってください。

### 人的資源戦略 2単位(3学期)

専任講師 大藪 毅

#### 授業科目の内容:

ヒト・モノ・カネ、いわゆる組織の3資源である。本講はその第一、「ヒト」すなわち人的資源のマネジメント(=HRM)に関する科目である。だがヒトの能力や適性は他の資源より可視性が低い。にもかかわらず、それを組織としてどのように活用すればよいのか、根本的にマネジメントがむずかしい分野でもある。ゆえにその時々の状況やその場の雰囲気、メンバーの主観的、時には利己行動などに影響され、いわゆるゴミ箱モデル的選択に陥りやすい部分でもある。

現実に自社の評価や能力開発、処遇などの制度をどう設計するのか。またそれはどのような思想と理論、そして自分達の状況認識にもとづくのか。組織で人材をうまくマネジメントし生産性を上げるには、勤や流行の手法に安易に頼るのではなく、経営者とマネージャーは自身で有効なロジックを組み立て、周りを納得させる必要がある。実際、土気および労働生産性が高い組織・職場を調べると、しっかりした人材思想とマネジメントのロジックが存在していることがわかる。

また雇用環境の変化が速い昨今、個人も企業HRMの考え方を踏まえてキャリアを考える必要がある。よいキャリアとは行く先々で頑張って貢献し、評価・感謝されることの蓄積の結果である。この意味で、HRM知識は人事スタッフだけでなくマネージャー・経営者も必須であり、また自分のキャリアを考えたい個人にも参考になると考える。

なおこの科目はグループプレゼンとクラスディスカッションによって行う。前提として受講生は事前に教科書の該当部分を予習して出席すること。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

成績は出席・貢献(授業・プレゼン)・最終レポートによる個人部分と、グループプレゼンテーションによる集団部分を合計して算出する予定。※ただし受講人数および状況によって変更がありうる。

#### テキスト(教科書):

人事と法の対話 守島基博・大内伸哉 ミネルヴァ書房

長期雇用制組織の研究 大藪毅 中央経済社

### ストレス・マネジメント 2単位(3学期)

教授 渡辺 直登

#### 授業科目の内容:

##### 目的:

本授業では、人々が経営組織という環境で働くがゆえに経験する「ストレス」を、組織の立場から、また個人の立場からどのようにマネージできるかについて、組織心理学・組織行動論・臨床心理学の観点から考察を行ないます。本授業では、「ストレス・マネジメント」の概念を幅広くとらえ、いわゆるストレス学説やストレス研究だけに焦点を絞るのではなく、組織心理学・経営行動科学が今取り組んでいる最先端の研究テーマを追いながら、この問題を考えていきます。

#### 授業の進め方と課題:

授業は、毎回2部に分けて行ないます。第1部ではショート・ケースを用いた討論および心理テスト演習を通じて学びます。実際の会社や職場で起こったケースを事前に配布しますので、1時限目の約40分をグループ討論、50分をクラス討議に当てて議論します。心理テストの場合は、授業時間の中で、あるいは授業時間外に、WEBを用いて自分自身を被験者としてテストを行なってもらいます。

第2部では、事前に配布した資料をもとに、予め設定したテーマに沿って講義&討論を行ないます。参加者は事前に配布する資料をよく読んで、グループおよびクラスのディスカッションで自分の意見を発表してください。

毎回リーディング・アサインメントを出しますので、受講者はそれらを読み、簡単なレポート(A4、2〜3枚程度)を授業のときに提出してください(レポートに求めるものは論文・評論・ケースに対する「批判」や「自分の意見」です)。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

期末テストはレポート(ターム・ペーパー)の提出で代替します。レポートのテーマについては授業中に示唆します。また個別の相談にも応じます。評価は、①中間レポート=30%、②クラスでの発言=20%、③期末レポート=50%、で行ないます。

#### テキスト(教科書):

Kets de Vries, M. & Miller, D. 1984 The Neurotic Organizations. CA: Jossey-Bass. (渡辺・尾川・梶原監訳 1995「神経症組織」 亀田ブックサービス)

Hirschhorn, L. 1993 The Workplace Within. MA: The MIT Press (渡辺・伊藤・今井監訳 2013「職場の精神分析」 亀田ブックサービス)

#### 参考書:

授業中に指示します。

#### 担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: 組織マネジメント

### 生産システム設計論 2単位(3学期)

教授 河野 宏和

#### 授業科目の内容:

製品やサービスを提供する活動や間接部門での事務作業をスリム化・効率化していくことは、戦略を実行するオペレーション・レベルの「基礎体力」を強化するためにも重要である。そのための手法や考え方を身につけるためには、実際の生産や営業の現場へ足を運んで自ら現状の仕事のプロセスを分析し、現物に触れながら改善のアイデアを考えていくような実践的なアプローチが大切である。本コースでは、改善に関する基礎概念を学んだ後、実際の工場での実習活動を通じて、自ら課題を設定・明確化し、それに基づいてデータを集めて分析し、問題点や改善案を考え出す「問題解決」プロセスを、フィールドワークにより学習することを目的とする。これまでは、以下のようなテーマを取り上げて実習活動を行っている。

1. 営業部門からの情報の流れの分析、発注方法・生産計画の立案方法と在庫削減
  2. 組立ラインにおける作業性、品質、生産性の向上
  3. 機械加工ラインにおける製品品質や生産能力の向上
  4. 物流活動におけるスペース削減と工数低減、など
- テーマは受講生の人数と希望に応じて毎年3〜4テーマを設定し、数名のグループ単位で実習作業を行い、実習先企業での報告会とグループ・レポート提出を行う。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

フィールドワークの参加度での評価。個人レポートはなく、グループでの会社への報告会とレポートで代替する。

#### テキスト(教科書):

特になし

#### 参考書:

特になし

### タックス・プランニング 2単位(3学期)

准教授 村上 裕太郎

#### 授業科目の内容:

このコースでは、所得税・法人税・相続税の基礎とタックス・プランニングの手法を学習する。タックス・プランニングの手法は、細かな節税テクニックとは異なり、より応用範囲の広い税務戦略である。また、税制についての研究もとりあげ、現在の税制の問題点や望ましい税制のあり方等についてもディスカッションする予定である。

税の問題は、財政学、公共経済学、会計学、税法学、ファイナンス等、さまざまな知識が必要になるが、それらをバランス良く身につけることが望ましい。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

出席+授業貢献点: 30%、宿題: 30%、期末レポート: 40%

#### テキスト(教科書):

主に配布資料およびケース

#### 参考書:

Scholes Myron S., Mark A. Wolfson, Merle M. Erickson, Edward L. Maydew, and Terrence J. Shevlin (2008) Taxes and Business Strategy: A Planning Approach, 4th edition, Prentice Hall.

### ビジネス統計 2単位(3学期)

教授 林 高樹

#### 授業科目の内容:

本授業では、さまざまな統計的手法を学び、これらの手法を実務に応用できるようになることを目指す。統計ソフトウェアを利用しながら学習する。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

授業への貢献度、個人課題、グループ課題、小テスト等の結果により評価します。

#### 担当教員から履修者へのコメント:

1学期自由科目「統計学入門」履修程度の知識を前提とします。

### マーケティング・コミュニケーション論 2単位(3学期)

教授 井上 哲浩

#### 授業科目の内容:

本科目は、企業の市場に対して行うコミュニケーションをマーケティング・マネジメントの見地から捉え、広告や広報そしてプロモーションなどの活動に加え、IMC(統合マーケティング・コミュニケーション)やメディア・プランニングそしてクロスメディアなどのメディアとしてのマーケティング・コミュニケーションを、文献精査、事例検討、ケース分析、グループ・プレゼンテーション等を通して学ぶ予定である。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

20%アサインメント(グループ単位)

20%授業参加

30%中間報告

30%最終報告

#### テキスト(教科書):

岸、田中、嶋村著『現代広告論 新版(有斐閣アルマ)』有斐閣、2008年。

#### 参考書:

田中・清水編著『消費者・コミュニケーション戦略—現代のマーケティング戦略(4) (有斐閣アルマ)』有斐閣、2006年。

#### 担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: マーケティング基礎、市場戦略論、流通論、消費者行動論、日本におけるマーケティング

## 経営戦略におけるアントレプレナーシップ 2単位(3学期)

"General Management in Japan II: Entrepreneurship"

Language of instructions: English

国際単位交換プログラム設置科目

実戦的な起業とベンチャー論をケースとビジネスプラン作成中心に行うIP(国際プログラム)。講師兩名は、各々タリーズコーヒー(株)の前取締役副会長と(株)ゴルフダイジェスト・オンラインの元COOでゼロからの起業・上場・exit経験有する。(兩名共Harvard MBA,三井物産出身)。  
講義は全て英語だが、試験答案は日本語で回答可。  
IPでの多国籍のMBAの学生と共にケース(日本関連のHarvard and Stanford Business Schools等出版のベンチャーのケースも多数使用)・ビジネスプラン発表審査を行うので、起業希望者はもとより、外資系企業就職予定者・国際業務担当予定者・海外勤務/留学予定者にも受講を強く奨めます。

講師 須賀 等

講師 玉置 浩伸

### 授業科目の内容:

The objective of the course is to learn management theories of entrepreneurship and to nurture future entrepreneurs, who are also expected to easily cross national borders in their venture business activities related to Japan. Venture business and entrepreneurship constitute the very foundation of modern economies anywhere in the world. In Japan, present-day global companies such as Toyota, Sony, Honda, Panasonic, Kyocera, Mitsui, and Mitsubishi all started out as tiny ventures. However, present-day Japan is losing entrepreneurial spirit and lags far behind other OECD nations in terms individual aspirations and track record of starting and cultivating new companies, which is particularly true in the last few years when the number of IPO's has declined dramatically and many major venture capitals are suffering from large losses in Japan. After the March 11 East Japan Great Earthquakes and Tsunami in 2011, plus lingering radiation threat from the ailing Fukushima Daiichi Nuclear plant disaster in the Southern Tohoku and Kanto regions, Japan will definitely have to overhaul its entire energy, industrial and economic structure and must see more ambitious and long-lasting ventures popping up throughout the country to be started by either Japanese or non-Japanese alike, which seems to have finally started in LH 2012.

This is in stark contrast to the eco-system of Silicon Valley, where successful ventures and industrial frontiers are constantly emerging. It is about the time that Japan, presently the third largest economy in the world, started to re-engineer its venture eco-system and exciting new companies will once again emerge and grow, by having substantial exposure to cross-border entrepreneurial spirits and activities, and in which many non-Japanese entrepreneur-minded students may find extremely lucrative business opportunities. During the semester, students will experience the 'real world' of entrepreneurship through eyes and true stories of entrepreneurs of highly successful fastgrowing cross-boarder venture businesses who will visit our class to give their real live stories. Students will also be exposed to a wide range of theories and conceptual frameworks and will learn practical skills through the analysis of case studies, many of which are still on-going. Groups ("Companies") of students will be formed and will participate in a business plan competition to be waged toward the end of the semester.

The presentation will be judged by 'real world' entrepreneurs and the instructor. In the event that there emerges an exceptionally attractive plan, students may have an opportunity to bring your dream to the real world through the instructor's venture capital network.

Optional Assignment: By Week3 or before, you may prepare and submit your own "business idea" on a ?-page sheet for use in the business plan contest as one of the participating themes. Successful submissions will be used as one of the themes for the final project.

Students who submitted such themes will probably be asked to be the imaginary president and CEO of each "company," and will later recruit other officers and employees from the class by advertising each

company's outline, mission statement, goals, etc. to the rest of the class. The process of advertising and recruiting the officers/employees will be informed later.

### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

講義は全て英語だが、試験答案は日本語で回答可。  
IPでの多国籍のMBAの学生と共にケース(日本関連のHarvard及びStanford各Business School等出版のベンチャーのケースも多数使用)・ビジネスプラン発表審査を行うので、起業希望者はもとより、外資系企業就職予定者・国際業務担当予定者・海外勤務/留学予定者にも受講を強く奨めます。講師兩名は、各々タリーズコーヒー(株)の前取締役副会長と(株)ゴルフダイジェスト・オンラインの元COOでゼロからの起業・上場・exit経験有する。(兩名共Harvard MBA,三井物産出身)。

### 成績評価方法:

Student performance will be measured in consideration of his or her achievement of the course Objectives listed below, in the following three areas: 40%: Midterm Examination; 40%:

Team presentation (business plans to be prepared by groups throughout the semester and to be presented and judged/graded in the final session); and 20%: Class participation (intelligent contributions during class).

### テキスト(教科書):

W. D. Bygrave and Zacharakis, A, ed. The Portable MBA in Entrepreneurship, 4e. New Jersey: Wiley.

Various Cases published by Harvard and Stanford Business Schools and others related to entrepreneurship, many of which cover the companies originated in Japan.

### 参考書:

Tim Clark and Kay, Carl. Saying yes to Japan. New York: Vertical. (Japanese translation“儲かる国ニッポン” by 日本経済新聞社 also available).

<Reference books in Japanese>

松田公太. 全ては一杯のコーヒーから (“Everything has started with a cup of coffee”).Tokyo: 新潮文庫

ケースで学ぶ実戦・起業塾(“Case Studies: Starting and Running Your Own Venture) 木谷哲夫編著. by 日本経済新聞出版社 2010)ISBN: 978-4532316365

<http://bit.ly/Nm7xUs>

志は起業を呼ぶ シリアルアントレプレナーの終わりになき挑戦 (玉置浩伸著 by ファーストプレス 2006)ISBN978-4-903241-20-3

<http://www.7netshopping.jp/books/detail/-/accd/1102305924/subno/1>

### 担当教員から履修者へのコメント:

Students are encouraged to have generally good interest in Entrepreneurship, whether they plan to start a business by themselves in future or not, to participate in this course.

Also,students are expected to have completed all reading assignments ( the case, notes, and textbook reading ) BEFORE coming to the class and have already familiarized themselves with the concepts written there. We will rely heavily on case method teaching and learning techniques developed at Harvard Business School. Generally, readings from the textbook and notes ARE NOT taught in class. In order to maximize the learning effect of the case study experience, students are expected to spend AT LEAST TWO HOURS for each case/class preparation. Knowledge in accouting, finance, marketing, or business strategy are helpful but not required.

## 多国籍組織・戦略 2単位(3学期)

"Multinational Organizations and Strategy: Organization Management in Japan 2"

Language of instructions: English

国際単位交換プログラム設置科目

教授 浅川 和宏

### 授業科目の内容:

This course focuses on the international dimensions of organizations and strategy, and provides frameworks for analyzing international business environment, formulating global strategies, and designing multinational organizations in an increasingly complex world economy. We delve into the theoretical frameworks as well as practical skills that managers need

to deploy to help their firms stay ahead of their competitors. Class discussions will be based on lectures, readings, and case analysis on Japanese and non-Japanese multinational corporations.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Class participation:Individual participation 60%, Team class presentations 10%, Group assignment 30%

---

### 日本における財務管理 2単位(3学期)

"Financial Management in Japan"

Language of instructions: English

国際単位交換プログラム設置科目

准教授 小幡 績  
特別招聘教授 張 秋華

---

授業科目の内容:

We will offer an opportunity to understand "real" Japan. We try to cover Japanese financial market as well as Japanese culture, society, and Japanese people. Chang will offer you a big picture of Chinese economy and Chinese financial sector.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Group Presentation, and class contribution

テキスト(教科書):

N.A.

参考書:

N.A.

担当教員から履修者へのコメント:

Please bring your interest and excitement as to Japan.

---

### 日本における生産管理 2単位(3学期)

"Production Management in Japan"

Language of instructions: English

国際単位交換プログラム設置科目

特別招聘教授 柿内 幸夫

---

授業科目の内容:

In the manufacturing industry, the profit may be different according to the way in which production is done. Initially production should be done with required quality and in a fixed schedule, while keeping facilities in good condition, stocking the inventory properly, training the staff such as operators to execute protocol and so forth are required.

Therefore in order for production management in Japan, to achieve business objectives, what is required is not only management direction of future strategies and policies, but also the ability of operators to carry out those requirements on shop floors.

This means production management in Japan is not only done by the decision of management but also done by the activities performed by the people on shop-floors. And continuous improvement or "Kaizen" is also an important factor to support the Japanese production industry.

In this course, both the strategic side and shop floor activity side will be discussed but the activity side may be discussed in more detail.

Basic activities for Japanese production management 5S, KZ

method(company-wide discovery of problems on shop-floors)

Kaizen activities, Seven wastes or "Muda's" of Toyota system,

Exercise: Four Principles of Motion Economy.

Cost down activity by labor productivity improvement and inventory

reduction, Exercise: Flow Production Production Systems of Japanese

Motor Industry Presentation: Nissan production way

(Guest lecturer NPW manager Mr.Hiroshi Ichikawa)

Execution of Kaizen by all employees Presentation: Kaizen activity by all

the company members (Guest lecturer Kawakami Industry Co., Ltd.

President Mr. Hajime Kawakami)

Quality Management, QC circle activities. Presentation: Nissan Motors'

QC Circle Activity (Nissan QC manager Mr. Makio Satoh)

Making machines in-house.

Work training

Simplifying production by process integration and visualization of production plans

The course will include a plant tour to a factory which stresses the importance of shop floor management.

授業の計画:

Session 1 Orientation

Session 2 Basic Activities for Japanese Production Management 5S, KZ Method(company-wide discovery of problems on shop-floors)

Session 3 Kaizen Activities, Seven Wastes or "Muda's" of the Toyota System

Session 4 Exercise: Four Principles of Motion Economy.

Session 5 Execution of Kaizen by All Employees

Session 6 Presentation: Kaizen Activity by All of the Company's

Members (Kawakami Sangyo Co., Ltd. President Mr. Hajime Kawakami)

Session 7 Cost Reduction Activity by Labor Productivity Improvement

and Inventory Reduction

Session 8 Exercise: Flow Production

Session 9 Quality Management, QC Circle Activities

Session 10 QC Circle Activity (Ex Nissan QC manager Mr.

Makio Satoh)

Session 11 Making Machines in-house.Work training

Session 12 Simplifying Production by Process Integration and

Visualization of Production Plans

Session 13 Production Systems of Japanese Motor Industry

Session 14 Presentation: Nissan production way (NPW manager

Mr.Hiroshi Ichikawa)

Session 15 Course Summary

Session 16 Course Summary

Session 17 Plant Tour

Session 18 Komy Co.,Ltd.

成績評価方法:

Class participation 50%, Short essay each lecture 50%, (Attendance more than 2/3 required)

テキスト(教科書):

Materials will be delivered in class.

---

### 日本におけるマーケティング 2単位(3学期)

"Marketing in Japan"

Language of instructions: English

国際単位交換プログラム設置科目

准教授 山本 晶

---

授業科目の内容:

The aim of this course is to deepen the students' understanding of marketing operations in Japanese companies. The first half of the course will consist of lectures on Japan's unique marketing environment, while in the second half, students will be divided into groups for field studies on marketing operations in actual companies. At the end of the course, students will be required to give presentations on their findings. The contents and schedule are tentative and may change.

授業の計画:

Please refer to course outlines which can be found in KBS student's page.

成績評価方法:

Class participation and Group Project Evaluation

テキスト(教科書):

None

参考書:

None

---

### 日本の経営環境 2単位(3学期)

"Japanese Business Environment

—Institutions and Systems—"

Language of instructions: English

国際単位交換プログラム設置科目

教授 中村 洋

---

授業科目の内容:

This course examines Japanese business environments, especially, its economy, companies, markets and consumers. This course will consist of lectures, case discussions, and team projects. In the team projects, our students are expected to "explore" Japan by themselves.

The following topics will be covered in this course;

### I. Japanese economy & history

- An overview of Japanese economy from the 1950s to 2010s
- Problems of non-performing loans
- Strength of the Japanese Economy
- Issues for the future: national economic burden, utilization of foreign work force, and impacts of demographic changes on Japanese economy

### II. Japanese companies

- Structure & corporate governance
- Organizational learning and purchase-supply relations in Japan

### III. Japanese markets and consumers

- Characteristics of Japanese consumers and markets
- How to achieve success in Japan: entry barriers and key success factors in the Japanese markets

#### 授業の計画:

Please refer to course outlines which can be found in KBS student's page.

#### 成績評価方法:

Assessment is ongoing throughout the course and is based on student participation in both lectures and group works.

### 英語ビジネス・コミュニケーションⅡ 2単位(1学期)

英語ビジネスコミュニケーションⅡ

講師 定森 幸生

#### 授業科目の内容:

グローバル・ビジネスの最前線で求められる英語力は、TOEICなどで測定される受け身の英語力(passive skills)だけでは不十分で、企業活動のさまざまな業務(対外取引、IR・広報活動、事業戦略策定、人事・業績管理など)の遂行を可能にする情報の受発信に即応した実践力(active skills)の強化が不可欠である。

本科目では、そのための戦略を模索することを主たる目的とし、受講者はreading, writing, listening, speakingの事前課題の成果をクラスで発表しながら、「企業・個人の"ブランド・イメージ"」を高めるプロに相応しいコミュニケーション技術を学ぶ。事前課題は、提示されたシナリオに基づくbusiness writingと、世界の企業経営者の発言の数分間のビデオクリップ(指定されたwebsiteからのダウンロード)を材料にしたclass discussionの準備が中心となる。クラスでの使用言語は原則として英語とする。

科目履修の基本コンセプトは、「優れた口頭表現力は、優れた文章構成力から」というもので、受講者は、class discussion/debateでの発言内容(賛成意見と反対意見の両方の論拠を含む)を事前に書き出し、論理展開の巧拙について十分な検証をしてクラスに出席することが求められる。

主な履修テーマは、①Fundamentals of Business Communication, ②Communication Strategy for Enhanced Branding, ③Performance Management and Leadership, ④Proposing a New Project, ⑤Managing Conflict and Problem Solvingを予定している。

4月5日(土)12時30分から90分のオリエンテーションを行う。実際の授業は、5月31日(土)から7月5日(土)までの6週連続で3時限～5時限の集中授業を予定している。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

事前課題の提出、クラスでの発表を総合的に勘案した絶対評価とする。

#### テキスト(教科書):

教科書は指定せず、事前課題の中でreading materialsを指定するほか、世界の企業経営者の発言を数百種類収録したインターネットサイトであるSkillSoft社のBooks24x7サイト(<http://www.books24x7.com>)から、課題スピーチをdownloadして事前課題の予習をおこなう。KBS学生対象の特別割引購入手配中。

#### 参考書:

受講者の学習ニーズ・目標に応じて、適宜紹介する。

#### 担当教員から履修者へのコメント:

特定の科目との直接的な関連はないが、ヒト、モノ、カネ、情報に代表される経営資源のマネジメントの場面を想定して、少しでもグローバルビジネスの臨場感を体験できるような講義テーマ設定をしている。英語によるコミュニケーションを学ぶことを当面の目標にしているが、講座全体を通じて議論するテーマは、日本語でのビジ

ネスコミュニケーション(管理職vs部下のコーチングを含む)と本質的には共通部分が多いことを同時に学習し、実務面で活かしてもらえることを期待している。

### グッド・ビジネス・イニシアティブ 2単位(1学期)

特任教授 岩本 隆

#### 授業科目の内容:

グローバル化が進むビジネス社会の中で、CSR、サステナビリティ、社会的弱者への対応、経営倫理など、良きビジネス(グッド・ビジネス)に大きな関心が集まっている。本コースでは、グッド・ビジネスの“グッド”の意味を、幅広くかつ具体的な産業・ビジネスを題材に、経営学の分野横断的な視点(戦略、財務、人財、技術、・・・)で掘り下げ、これから創造していくべきグッド・ビジネスについて体系的に検討する。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

授業への貢献度、レポート、プレゼン

#### テキスト(教科書):

毎回配布する

#### 参考書:

授業中に適宜紹介する

#### 担当教員から履修者へのコメント:

授業を通して新たなコンセプトを創り上げていきます

### 経営者の法と実務 2単位(1学期)

講師 佐藤 明夫

#### 授業科目の内容:

法律は、社会との関連性の中ではじめて意味を持つてくるものであるから、実社会と切り離された中で、理論や判例、学説の学習を座学として行ってもあまり意味がない。とりわけ、経済者や実務家となるための学習として法律を学ぶ場合、法律だけでなく、会計、税務を含む、経済やその他の社会の様々な情勢との関連性を常に意識し、かつ、具体性を持って勉強しなければほとんど「使えない教養」にしかならない。

そこで、本講座においては、卒業生が、一定以上の規模の会社の取締役に就任したり、経営企画部等の戦略部門において勤務することや、卒業後に起業家としてベンチャービジネスを興し将来上場を目指していくことなど、企業の中核において会社経営に参画することを念頭に、企業経営に必要な会社法を中心とした様々な法律の基礎を勉強した上で、会計、税務、人事政策等から、資本政策、IPO、さらには、上場後の企業の中核として知っておかなければならない経営や事業戦略上必要となる様々な事項について、単なる抽象的な座学にならないように、法律については実務的、実践的に、さらには、法律以外の分野との関わりを具体的に示しながら講座を展開していくことを想定している。

なお、必要に応じて、専門的な法律分野や、他の分野の専門家を招聘して、そういった専門家の講義と連携して授業を進めていくことを想定している。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

#### 成績評価方法:

レポートの内容をみて、評価する。

### 統計学入門 2単位(1学期)

講師 木村 浩

#### 授業科目の内容:

IT化されたビジネスの現場には、データが溢れています。その様なデータを的確に収集・分析することによって、経営判断の精度を上げる必要を感じたことがあるのではないのでしょうか。

本講義は、推定・検定といった統計学的方法論、さらに相関・回帰分析等の統計モデルについての解説を行います。基礎的な数理・統計の理論を学ぶ際に、背景にある原理を難しい数式や確率変数の概念を出来るだけ使わず、わかりやすく説明することを試みます。

また、講義の際には、データを用いた演習を行なうことで、学習効果を高めます。

#### 授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

**成績評価方法:**

期末試験あるいはレポート、及び授業への出席により総合的に評価します。

**テキスト(教科書):**

特になし

**参考書:**

授業中に適宜紹介します。

**担当教員から履修者へのコメント:**

本講義は、これまで統計学について、ほとんど学習したことのない学生を対象として実施します。講義の際には、都度、Microsoft Excelを用いた演習を実施しますので、ノートPCを持参して下さい。

---

**組織と人間行動 2単位(2学期)**

准教授 林 洋一郎

**授業科目の内容:**

本講義は、組織における個人や集団の「行動」について論じます。組織行動(organizational behavior)に関する講義です。組織における個人や集団の行動を解明するにあたっては、伝統的に社会心理学や産業・組織心理学の理論が適用されてきました。個人が行動を示すプロセスやメカニズムについて、種々の理論や考え方が提案されてきました。本講義は、こうした組織内の個人や集団の行動に関連する心理学的な理論を中心に学んでいきます。本講義で取り上げるトピックは、例えば、職務業績、ワーク・モチベーション、リーダーシップ、グループ・ダイナミクス、意思決定、組織の公正さなどです。受講生の人数にもよりますが、講義は、最新の英語論文を輪読しながら進めていく予定です。取り上げる論文は、皆さんの関心や興味を反映させたものにしたいと思います。

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

**成績評価方法:**

出席+授業貢献点: 30%、アサインメント: 30%、期末レポート: 40%

**テキスト(教科書):**

伊波和恵・高石光一・竹内倫和編著 「マネジメントの心理学: 産業・組織心理学を働く人の視点で学ぶ」 2014年 ミネルヴァ書房

**参考書:**

Robbins, S. P., & Judge, T. A. (2014). *Organizational Behavior* 16th Edition, Prentice Hall College.

Levy, P. E. (2012). *Industrial/Organizational Psychology: Understanding the Workplace* 4th Edition, Worth Pub.

**担当教員から履修者へのコメント:**

アカデミックな理論と受講生の皆さんが培ってきた実践知に基づく理論が融合できることを目指したいと思います。

**質問・相談:**

講義終了後やe-mailでアポイントメントをとってください。

---

**英語ビジネス・コミュニケーション I 2単位(2学期)**

英語ビジネスコミュニケーション I

講師 定森 幸生

**授業科目の内容:**

1学期に予定している「英語ビジネスコミュニケーションII」と同じ開講趣旨に基づいて授業を行うが、「英語ビジネスコミュニケーションII」が、主として2年目の国際プログラムに参加する学生が受講することを想定して1学期に開講するのに対して、「英語ビジネスコミュニケーションI」は、早い時期からグローバルビジネスの最前線が必要とされる英語力を確認したい1年目の学生が履修しやすい時期に開講するものである。10月1週目から平日2コマと土曜日2コマ(11月1日は3コマ)のペースで5週間の集中授業を予定しているが、「英語ビジネスコミュニケーションII」より若干基本的な演習にウエイトを置いた授業を想定している。但し、何れのコースも、特定の学年に限定せずに履修を認める。

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。(本年5月以降に掲載する予定)

**成績評価方法:**

事前課題の提出、クラスでの発表を総合的に勘案した絶対評価とする。試験は行わない。

**テキスト(教科書):**

教科書は指定せず、事前課題の中で reading materials を指定するほか、世界の企業経営者の発言を数百種類収録したインターネットサイトである SkillSoft 社の Books24x7 サイト (<http://www.books24x7.com>) から、課題スピーチを download して事前課題の予習をおこなう。KBS学生対象の特別割引購入手配中。

**参考書:**

受講者の学習ニーズ・目標に応じて、適宜紹介する。

**担当教員から履修者へのコメント:**

特定の科目との直接的な関連はないが、ヒト、モノ、カネ、情報に代表される経営資源のマネジメントの場面を想定して、少しでもグローバルビジネスの臨場感を体験できるような講義テーマ設定をしている。英語によるコミュニケーションを学ぶことを当面の目標にしているが、講座全体を通じて議論するテーマは、日本語でのビジネスコミュニケーション(管理職 vs 部下のコーチングを含む)と本質的には共通部分が多いことを同時に学習し、実務面で活かしてもらえることを期待している。

---

**ビジネスモデルとグローバルマーケティング 2単位(2学期)**

特別招聘教授 平井 孝志

**授業科目の内容:**

本科目では、ビジネスモデルとグローバルマーケティングの観点から、昨今グローバル展開を大きく求められる企業の経営課題と、それに対してどのような戦略的対応が可能かについて学ぶことを目的とします。

まず幾つかの企業事例を取り上げながら、ビジネスモデルについての理解を促進するとともに、それがどのようにグローバル展開において役立つか、あるいは逆に制約要因となり得るかといった点について議論をおこないます。その後、次のような点に力点を置きつつ講義を進めていく予定です。

第一に、グローバルマーケティングの基礎理論について俯瞰します。グローバルレベルでのバリューチェーン最適化(標準化と適応化)の考え方を軸に、4Pそれぞれの観点から、事例を交えつつ、グローバルマーケティングにおける重要な論点について理解を深めます。第二に、複数のケース・事例を用い、実務において役に立つ示唆の抽出を試みます。主に、グローバル先進企業を取り上げながら、その成功・失敗事例に基づき、顧客ニーズへの対応、マーケティング実務の高度化・効率化、ブランド管理の仕組構築におけるKSFに迫ります。そして最後に、日本企業を主語とした場合の課題、例えばガラパゴス化、ビジネスアーキテクチャー変化への対応、グローバル経営管理のあり方なども題材とし、それに対する打ち手についても考察をおこないます。

これらを通じて、グローバル展開における事業運営の要諦の理解を達成したいと考えています。またクラスの中では、担当教員が就業経験を有する企業であるデル、スターバックスなども題材としつつ、生々しい外資系企業の実務、ビジネスモデルの実際を共有します。そして、これまで経営コンサルタントとして関わってきた企業のグローバル課題事例なども取り上げ、現実的な経営課題にできるだけ数多く触れる予定です。

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

**成績評価方法:**

授業への出席、ならびにディスカッションへの貢献度 50%

期末レポート 50%

**テキスト(教科書):**

特になし。ただし、ビジネスモデルの事例やグローバルマーケティングの論理について学びたい人は「参考書」に記載の書籍を参考にしてください。

**参考書:**

堀出一郎・山田晃久(2003)『グローバルマーケティング戦略』中央経済社

丸谷雄一郎(2006)『グローバル・マーケティング 第4版』創成社  
諸上茂登(2012)『国際マーケティング論の系譜と新展開』同文館出版

山田英夫(2012)『なぜ、あの会社は儲かるのか? ビジネスモデル編』日本経済新聞出版社

**担当教員から履修者へのコメント:**

講義、演習、ケース・ディスカッションのバランスを取りつつ講義を進めます。特段マーケティングについての深い知識は必要ありません。

せんが、クラスへの積極的な貢献が学習効果を最大化することになります。

**質問・相談:**

e-mail等を通じて随時対応します。

---

**起業体験 2単位(秋学期)**

講師 村口 和孝  
講師 西戸 雄太

**授業科目の内容:**

夏季短期集中起業体験プログラムに向けて「会社経営の傍観者から、主催者へ」

特にサラリーマン経験者が、ビジネススクールにおいて会社経営を学ぶ場合の問題点は、組織の部署のメンバーでしかない事を前提とした、つまり視野狭窄に陥ったままの会社観で物事を分析してしまう点である。

例えば、会社経営において株主総会や取締役会は経営の根幹の組織であるが、数年サラリーマンを経験した優秀な学卒者が関与する機会はほとんどない。また、大会社のサラリーマンは、仮に経理部に配属されていたとしても、自ら会社の会計帳簿を記帳し、貸借対照表や損益計算書を作成したことはない。すべてシステム化されてしまっている大企業のサラリーマン経験が、必ずしも会社経営を勉強するに十分なビジネス経験とは言えないのである。

このような現状を短期間で克服し、会社経営の全体構造を体験的に早い段階で理解していることは、大変重要なことである。そうでなければ、ビジネススクールでいくら学んでもステイブジョブズやザッカーバーグにはなれないであろう。会社経営の全体を理解するとは、例えば次のような問いに対する自らの見解を持つことである。

1. 資本を調達する仕組みである株式会社制度を説明せよ。
2. 事業とは何をどうする事か説明せよ。
3. なすべき事業に何をすべきか、何が儲かるか、意味があるか、選び方を説明せよ。
4. 会社経営に関係する司法書士、弁護士、会計士の役割を説明せよ。
5. 事業環境が変化した時、事業計画をどう変更すればよいか説明せよ。
6. 事業活動の価値と、株主が利益を得る仕組みを説明せよ。
7. 取引の記帳から決算書が出来あがる仕組みを説明せよ。
8. 起業家の心得を述べよ。
9. 起業投資家であるベンチャーキャピタリストの役割について説明せよ。

おそらく、以上の起業家にとっては当たり前の質問に大企業サラリーマン経験者は戸惑うであろう。ただし、膨大な細かい事業経験の知識を覚えることは必要ない。それは結婚する人がするよう、事業を担う人としての人生上での覚悟をするようなものである。一番わかりやすい早道の一つは、実際に小さい事業でよいから体験してみることである。

この夏季短期集中起業体験プログラムは、一か月という限られた時間内で、投資家と交渉して自らの株主となり、会社を興し、模擬店事業を準備実行し、販売活動し、決算書を作成し、株主総会を、傍観者でなく主催者として体験する。この集中的な一通りの体験によって、参加者は、まじめに取り組めば、楽しみながら、必ず株式会社の仕組みについての基本的な知識を包括的に身につけられるようになる。

**授業の計画:**

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

**成績評価方法:**

出席、レポート提出等を元に評価

---

**ビジネス・ゲーム 2単位(2学期)**

総合経営演習

講師 許斐 義信  
講師 岡田 哲男

**授業科目の内容:**

日本の鉄鋼業をモデル化したゲームを使用する。

ビジネス・ゲームは、参加者が8〜12人単位で企業一社を構成し、各社が同一市場で事業業績の向上を目指して激しい競争を展開する、いわゆる模擬経営の場である。経営環境は刻々と変化するので、経

営の転換点を的確に把握し、営業・製造・研究開発・資金・人員配置などについて総合的判断、経営問題の定義、定義した課題に関して的確な経営計画の策定そしてその実行など多岐わたる経営判断を求める。

各コースで学んできた会計、組織と人間、情報システム、マーケティング、生産、財務の諸分野における概念や技能を駆使した企業間競争の展開を通じて、参加者は、経営の各分野間の協調の重要性とマネジメントの役割とについての討議し試行しながら、その経営における位置づけと、経営問題の定義そして総合経営の本質について認識を深めることを迫られる。数日に縮められた、数年分の模擬経営は戦略策定の場であり組織生成過程の体験の場であり、経営管理制度構築の場である。また、組織における人間行動の本質を見る機会にも遭遇する。当コースはオリエンテーションとシュミレーション実施後の総括の時間を除き、主要なセッションは合宿(2泊3日)にて行う。

**授業の計画:**

適宜案内資料を配付します。

**成績評価方法:**

模擬経営終了後、チームに依る分析と発表・討議を行う。

その後、個人レポートを提出、基本的には出席とレポートで採点する。

**テキスト(教科書):**

ビジネスゲームの解説など数点のテクニカルノートを事前に配布する。

**参考書:**

図書館にはビジネスゲームに関する数冊の拙著があるので、関心がある方はお読み頂くことも可能である。

**担当教員から履修者へのコメント:**

経営を総合的に認識・経営課題の解決を如何にすべきか、に関して仮説や問題意識を持って参加頂きたいと希望します。

**質問・相談:**

質問・相談がある方はメールしてコンタクトが可能。

メールは事務にて問い合わせ頂きたい。

---

**会計管理特殊講義 3単位(1学期)**

**会計管理演習 3単位(2学期)**

教授 太田 康広

**授業科目の内容:**

このコースは、主として、企業会計とディスクロージャーに関わる領域で修士論文を書くとする人を支援する目的で行なわれる。「会計管理」の特殊講義であるが、修士論文のテーマは、狭い意味の「会計」に関するものに限定されるわけではない。具体的なテーマは受講者の関心とテーマに応じて変更される。

**授業の計画:**

各教員の指導によります。

**成績評価方法:**

修士論文および修士論文執筆過程のパフォーマンスを評価する。

---

**会計管理特殊講義 3単位(1学期)**

**会計管理演習 3単位(2学期)**

准教授 村上 裕太郎

**授業科目の内容:**

本科目では、トップ・ジャーナルに掲載された会計の実証論文をサーベイする。

履修要件: 会計学、ミクロ経済学、および計量経済学の基礎的知識を必要とする。

**授業の計画:**

履修者に別途知らせる。

**成績評価方法:**

履修者に別途知らせる。

---

**経営環境特殊講義 3単位(1学期)**

**経営環境演習 3単位(2学期)**

教授 姉川 知史

**授業科目の内容:**

プロジェクト型の修士論文の作成準備を次のように行う。プロジェクト型とは、課題設定、分析、提言、実施の一連のプロセスを想

定した研究である。提言を含むこと、また、実施を想定していることに特徴がある。

プロジェクト型の修士論文では、課題設定が極めて重要である。日本や世界の重要課題を題材として、その中心的課題を明らかにし、それについて何らかの解決をめざす、提言、実施を行うための作業を1年をかけて実施する。

研究体制は、通常は、複数の多様な専門領域、社会的背景の者が集まり、共同作業を行う形態をとる。したがって、3名ほどのチームを編成するのが理想的である。これが困難で1人プロジェクトとなる場合は、指導教員、外部の専門家などと協力して集団で検討する体制を実現する。

この教育の目的として、第1に、論文を書くにあたって必要な能力を訓練する。これは研究テーマや課題の選択方法、仮説の設定方法、論証の仕方等、理論の作り方、実証研究の方法等を強調する。

第2に、具体的プロジェクトの題材に即して、それに関連する内容を包括的に、他領域を含めて俯瞰的に検討する。

第3は、これまでにない斬新な方法を提言する。

修士論文は、個々の学生ごとに提出し、評価を受ける。プロジェクト型では、分担して作成した「共通部分」と、個人で作成した「個別部分」の2部構成とする。

**授業の計画:**

各教員の指導によります。

**成績評価方法:**

授業参加と修士論文

---

### 経営環境特殊講義 3単位(1学期)

### 経営環境演習 3単位(2学期)

教授 中村 洋

**授業科目の内容:**

この講義では、産業組織論、経済学、経営学の観点から、企業・組織の戦略的行動に関する諸問題を検討します。特に、急速に変化する外部経営環境に対して企業・組織がどのように対応するかについて考察を行います。具体的な研究テーマの例として、

- 産業分析 (パイオ、医薬品・医療、IT、環境関連、エレクトロニクス、電力・ガス、金融など)
- 産業政策と企業 (研究開発政策、産学連携、環境問題、医療政策、社会保障制度、規制緩和、産業育成など)
- 企業 (ベンチャーを含む) のR&D・組織戦略
- 企業の社会的責任 (SRI、環境)
- 業界構造変化と内部経営資源蓄積 (経営資源・能力論とSCP ロジックの動的な関係)
- IT活用と組織改革
- ヘルスケアにおける連携 (医療機関間連携、職種間連携) があります。

また、研究手法として、以下の点を重視します。

- ・基礎理論を使って、研究対象となる事象を単純化、体系化する。
- ・これまでの定説を鵜呑みにすることなく、新しい事実、考え方、提言を提示する。
- ・質問紙調査、インタビュー調査、ケース・スタディ、データを使った実証研究を行う

**授業の計画:**

各教員の指導によります。

**成績評価方法:**

履修者に別途知らせる。

---

### 経営政策特殊講義 3単位(1学期)

### 経営政策演習 3単位(2学期)

教授 磯辺 剛彦

**授業科目の内容:**

本特殊講義の目的は、経営戦略や国際経営にかかわる諸問題について、実務的な問題認識とそれに対する学術的なアプローチを関係づけることにある。例えば、最近になって実務で重要な課題となっている社会的責任について、競争優位の観点から考察することなどがあげられる。具体的な研究テーマとしては、成熟市場におけるイノベーション、コモディティ市場における差別化、事業システムの変革、NPOのマネジメント、戦略資源としての不動産などを想定しているが、経営戦略や国際経営に関する領域であればテーマは問わない。

修士論文は研究テーマよりも、それに取り組むプロセスを重視するため、マネジメントに関する学術的な見識を高めるだけでなく、社会科学における方法論の知識も深める。問題の設定、仮説の構築、検証方法などを身につけることにより、実務における諸問題に対して科学的に取り組むことができる。研究へのアプローチについては、定量的な実証研究が望ましいが、科学的な検証手続きに従っていれば定性的な研究も歓迎する。

**授業の計画:**

基本的に、ゼミとしての統一テーマ (流通やロジスティックが主役になる戦略)、および修士論文に関する活動を柱とします。

**成績評価方法:**

ゼミでの貢献、および修士論文の完成度

---

### 経営政策特殊講義 3単位(1学期)

### 経営政策演習 3単位(2学期)

教授 岡田 正大

**授業科目の内容:**

本ゼミでは、「個別企業が均衡を上回る経済的パフォーマンスを挙げるための条件」を理論化した企業戦略論 (Strategic Management) を支柱として現実の諸事象を分析し、持続的競争優位をもたらす条件を明らかにするとともに、実務に役立つ知見を導くことを目指す。当ゼミが目指すのは、企業戦略全般のテーマに加え、情報通信技術の進展をベースとした新たな事業モデル (群衆の叡智、Learning 2.0等) ならびに世界の最貧層市場 (Base of the Pyramid) への戦略である。

研究テーマ領域の例:

- BOP市場での企業戦略
- 企業の経済的パフォーマンスと社会的パフォーマンスの両立可能性 (営利企業による社会問題解決)
- 「群衆の叡智・予測市場」の実証研究
- ネット経済下における持続的競争優位の源泉
- 企業の持続性と経済的パフォーマンスの関係

**授業の計画:**

各教員の指導によります。

**成績評価方法:**

議論への貢献度と論文の完成度によって評価

---

### 経営政策特殊講義 3単位(1学期)

### 経営政策演習 3単位(2学期)

教授 小林 喜一郎

**授業科目の内容:**

昨今、企業をめぐる競争環境が大きく変化し、今まで通用してきた方法論が大きく揺らぎ始めています。従来とは桁違いのスピードで起きる変化、膨大な市場ポテンシャルを持つ新興国への展開の必要性、新たな競合としての新興国巨大企業の台頭、経済活動と社会との親和性を重視したサステイナビリティ経営の重視等、様々な企業経営上の 이슈が取りざたされる中、企業はグローバルな視点でのユニークなポジションの設定、その達成に向けての世界規模での資源の再配置、経営管理システムの変更、が求められています。こうした認識のもと、本ゼミナールでは戦略論をベースとし、絶えずグローバルな視点から、従来の業界枠を超えた新しい競争ルールをどう確立していくべきなのか、将来に向けてどうやってイノベーションを起こすべきか、を常に中心課題として議論しています。

**授業の計画:**

修士論文作成のプロセスとスケジュール (修士論文の作成手順)

4月～6月: 戦略理論と問題意識を元に討議、論文テーマを絞り込む。

6月～7月: 仮説構築と検証方法の検討。プロポーザルの作成(小サンプルテスト)。

8月～9月: 仮説検証のためのデータ収集、ならびにフィールドワーク。

10月～11月: データ解析、ならびにその結果の理論的解釈。

ケーススタディの作成と帰納的結論の導出。

12月: 論文の仕上げ(結論とインプリケーション)。

1月～2月: MBA課程復習のための輪談会。

**成績評価方法:**

毎回の発表、課題成果、論文  
テキスト(教科書):

**担当教員から履修者へのコメント:**

当ゼミはCompetition & Strategyを中心研究領域とし、これに興味を持っている人、あるいはこのテーマで論文に取り組もうという意欲のある人を歓迎します。具体的研究テーマとして例えば、戦略ドメインの定義と企業戦略、業界構造と競争戦略、戦略への資源論的アプローチ、イノベーションのマネジメント、多角化戦略、デファクト・スタンダード、ネットエコノミー戦略、新事業創造、脱成熟戦略、戦略提携、コア・コンピタンスと競争力、ナレッジと学習のマネジメント、組織コンフィギュレーション、ベンチャー企業経営、BOP市場攻略、リバースイノベーション戦略、などが考えられますが、当然これ以外のテーマも戦略に関するものなら結構です。なお対象とする業種・業態については特に制限はありません。

**財務管理特殊講義 3単位(1学期)**

**財務管理演習 3単位(2学期)**

准教授 小幡 績

**授業科目の内容:**

コーポレートファイナンス、行動ファイナンス、およびその他の興味深い事象に関する個人研究を支援するために、本ゼミは行われる。トピックは基本的に受講者の関心に対応して設定されるが、受講者の関心と大きく食い違わなければ、本年度は、スタートとしては、行動ファイナンスに関する事象について考えてみる予定である。なぜ、デイトレーディングで儲けることができるのか?ストラクチャードファイナンスとは、マーケティングだという小幡の主張はどういう意味か?そもそも、株式とは最後はどうなるのか?優良大企業は永遠に不滅なのだろうか?

基本的には、受講者の関心のある事象、謎について、毎回議論を行うが、その解明、分析などに当たっては、academic paperやnews journal, dataなどを通じて考え、議論することも行う。それにより、それぞれの受講者の謎を論文にまで高められるよう、そして、各受講者が、個人で研究活動をできるよう、研究のノウハウの伝達も含めて、全員で協力していく。

**授業の計画:**

毎週1回 ディスカッションまたはプレゼンテーション

**成績評価方法:**

議論、論文の質による。

**財務管理特殊講義 3単位(1学期)**

**財務管理演習 3単位(2学期)**

准教授 高橋 大志

**授業科目の内容:**

本講義では、マーケットに関連するトピック等について取り扱う。代表的な金融資産である株式や債券などをはじめとした資産価格の評価方法や、それら評価方法の応用例などに関する受講者の研究発表とそれに基づいた議論により、講義を進める。必要に応じて文献購読、データ分析等を行う。

**授業の計画:**

各教員の指導による。

**成績評価方法:**

受講者の講義への取り組み、講義に対する貢献などを基に評価を行う。

**テキスト(教科書):**

必要に応じ講義中に指定する。

**財務管理特殊講義 3単位(1学期)**

**財務管理演習 3単位(2学期)**

准教授 齋藤 卓爾

**授業科目の内容:**

財務データ、株価データ、経営者・取締役データ、株主データなどを用いて企業に関する実証研究(計量分析)を行っています。研究テーマは主にコーポレート・ファイナンスに関連の深いコーポレート・ガバナンス、M&Aなどですが、組織の経済学や労働経済学に

関連する研究も行っています。以下は現在取り組んでいる研究テーマです。

1. 経営者が企業業績・行動に与える影響の分析  
※経営者の違いが企業行動や株価の違いに影響を与えているのかを特殊な経営者交代に注目して研究しています
2. M&Aのパフォーマンスの決定要因の分析  
※M&Aの事後のパフォーマンスにコーポレート・ガバナンスなどがどのような影響を与えているのか研究しています。
3. ファミリー企業のパフォーマンスの決定要因の分析  
※事業承継後、どのようなファミリー企業、何をしたファミリー企業が成功しているのかを研究しています
4. 取締役会に関する分析  
※日本企業にとって取締役会、監査役会は重要なのか研究しています
5. 経営者のインセンティブ(役員報酬、キャリア)の分析  
※経営者の交代、役員報酬がどのように決定されているのかを研究しています
6. 日本企業の収益性の決定要因の分析  
※他国と比べて日本企業の収益率が低いことは昨今広く知られているが、なぜ低いのかを研究しています

**授業の計画:**

各教員の指導によります。

**成績評価方法:**

平常点

**人的資源管理特殊講義 3単位(1学期)**

**人的資源管理演習 3単位(2学期)**

専任講師 大藪 毅

**授業科目の内容:**

このゼミでは、企業の人的資源管理に限らず、雇用・労働市場などの社会的システム問題、また個人のキャリア選択・形成のあり方などまで含め、人的資源全般の諸問題について勉強します。専門知識や管理手法以前に、「ひと」に対して本能的興味がある方に来ていただきたいと思います。

**授業の計画:**

各教員の指導によります。

**成績評価方法:**

ゼミへの出席、貢献、その他を総合的に勘案して決定。

**生産政策特殊講義 3単位(1学期)**

**生産政策演習 3単位(2学期)**

教授 河野 宏和

**授業科目の内容:**

製品やサービスを供給する企業や組織における経営管理活動を対象として、受講者の研究発表とそれに基づいた討論により、輪講形式で講義を進める。対象となる「生産・供給活動」には、工場における生産活動だけでなく、医療・金融・公共サービスなど、付加価値を提供する事業活動やそれを計画・管理する事務作業などの支援業務が広く含まれる。重点的に検討する問題領域は、受講者の関心を考慮して毎年決定するが、例えば

1. 自動化・情報化に伴う生産システムの設計・改善問題
2. 生産部門と販売部門の連携の進め方
3. 設計部門と生産部門の連携の進め方
4. 日本的生産管理手法の特徴と今後の課題
5. 設備投資の評価方法に関する問題
6. 生産・サービス企業の経営戦略

などが考えられる。特にこの科目では、対象となる企業や組織におけるオペレーションに着目し、そこに内在する問題点を明らかにし、それらを改善・設計していくための手法と考え方について、フィールドワークを重視し、加えて文献研究と事例研究を通じて深く考察する。

**授業の計画:**

原則として週に1回のゼミ運営で進めますが、履修学生のテーマに応じて各教員が指導方法を定めます。

**成績評価方法:**

毎週のゼミでの発表内容、中間報告内容、最終論文発表会の内容、修士論文の内容を総合的に判断して評価します。

生産政策特殊講義 3単位(1学期)  
生産政策演習 3単位(2学期)

教授 坂爪 裕

授業科目の内容:

本講では、企業のオペレーション活動に内在する主要な経営課題と意思決定問題について討議する。具体的な討議テーマは受講生の興味・関心に応じて決定する。

授業の計画:

別途指示します。

成績評価方法:

別途指示します。

組織・戦略特殊講義 3単位(1学期)  
組織・戦略演習 3単位(2学期)

教授 浅川 和宏

授業科目の内容:

本講義では、グローバル経営に関する実証研究を行なう準備として、国際経営学、グローバル・イノベーション論、組織戦略論に関する基礎的理解を確認し、あわせて修士論文作成の為に必要な研究方法論に関する議論を行なう。その上で受講者各自の研究テーマ、研究設問の設定、ないし最適な研究方法論の選択を行なう。その後は適宜各自の研究の進捗に応じ、全体討論ないし個別指導を行なう。文献のみならず研究活動全般において英語を多用するので、英語運用能力向上に意欲のある学生が望ましい。当ゼミの代表的研究テーマとしては、グローバル・イノベーション戦略、グローバル・ストラテジー、国際R&Dマネジメント、イノベーション経営などが挙げられる。

授業の計画:

各教員の指導によります。

成績評価方法:

研究成果に基づき評価する。

組織・戦略特殊講義 3単位(1学期)  
組織・戦略演習 3単位(2学期)

教授 清水 勝彦

授業科目の内容:

本ゼミの主なテーマは「組織変革」「組織学習」である。企業の短期的な成功、失敗を取り上げるのではなく、企業の中期的な行動についての研究を通じ、より永続的な企業の競争力についての考察を深めたい。組織戦略論に関する内外の重要な研究文献を講読し、あわせて修士論文(ケースを含む)作成の為に必要な研究方法論に関する指導を行なう。受講者は各自で研究テーマを設定し、プロポーザル作成後は随時個別の指導を行う。

授業の計画:

各教員の指導によります。

成績評価方法:

論文のクオリティ並びに貢献度合い

組織行動特殊講義 3単位(1学期)  
組織行動演習 3単位(2学期)

教授 渡辺 直登

授業科目の内容:

組織行動研究の最先端の理論、研究トピック、方法論等について学ぶ。各自の研究テーマを深く掘り下げ、研究を行ない、論文としてまとめる方向性で指導を行なう。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

テキスト(教科書):

履修者の関心領域を勘案して決定する。

マーケティング特殊講義 3単位(1学期)  
マーケティング演習 3単位(2学期)

教授 井上 哲浩

授業科目の内容:

本ゼミナールでは、マーケティングの現代的課題を、参加者各人の自主的な研究を通じて検討する。参加者は、あらかじめマーケティングの特定分野に対する問題意識をもち、そのテーマを自ら理論的、分析的に深く解明するために、積極的に研究することとする。

個々人の研究に統一的な基礎を与えるため、理論的なマーケティング文献を輪読し、ディスカッションを通じて相互啓発をはかり、最終的に実証研究を行う予定である。

授業の計画:

各教員の指導によります。

成績評価方法:

レポートにより評価。

マーケティング特殊講義 3単位(1学期)  
マーケティング演習 3単位(2学期)

准教授 坂下 玄哲

授業科目の内容:

マーケティングに関わるさまざまな問題に対して、特にミクロな消費者行動を分析視点とした研究アプローチからの解明を目指す。具体的には、消費者行動研究を中心とする関連分野の基本的な理論系譜と、さまざまな研究方法の特性について、関連文献の輪読およびディスカッションを通じて理解する。その上で、参加者の自由な問題意識に沿った仮説を導出し、経験データの収集および分析を通じた検証を試みる。

授業の計画:

各教員の指導によります。

成績評価方法:

講義における発言、および学生からの成果物をベースに総合的に評価する。

マーケティング特殊講義 3単位(1学期)  
マーケティング演習 3単位(2学期)

教授 余田 拓郎

授業科目の内容:

マーケティング戦略やマーケティング・マネジメントに関する主要な概念、理論および方法についての理解を深めることをねらいとする。とりわけ、近年研究成果の著しい顧客関係のマネジメントやサービスにかかわるマネジメントなどの領域について、内外の文献の輪読およびディスカッションを通じて、講義を進める予定である。

授業の計画:

各教員の指導によります。

成績評価方法:

出席状況や授業への参加およびアウトプットにより評価する。

マネジリアル・エコノミクス特殊講義 3単位(1学期)  
マネジリアル・エコノミクス演習 3単位(2学期)

准教授 安道 知寛

授業科目の内容:

適宜テーマを選び、輪読、ディスカッション等をおこなう。検討したい課題に対する解決策を考えていく。

授業の計画:

各教員の指導によります。

成績評価方法:

出席など

マネジリアル・エコノミクス特殊講義 3単位(1学期)  
マネジリアル・エコノミクス演習 3単位(2学期)

教授 大林 厚臣

授業科目の内容:

リスクマネジメント、組織や契約のデザイン、事業戦略、技術経営、経済政策などの中から適宜テーマを選び、討論と研究を行ないます。

**授業の計画:**

修士論文のテーマは各自の興味に沿って決めてもらいますが、ゼミとしてのシナジーを生むために、定期的に各自のテーマに関連した話題提供をしてもらい議論をします。この効果として、他のメンバーの研究テーマについても知識が広がるほか、情報を共有することで、お互いに役立つようなデータやアイデアを知らせあう事ができます。

1 学期の予定は、各自の修論テーマに沿った報告やブレーン・ストーミング、それと共通の話題で知見を広げる活動です。2 学期は、徐々に各自の修論作成に直接関係する活動の割合を増やします。夏休みと冬休みは、ゼミ全体での会合の予定はありません。

**成績評価方法:**

ゼミへの参加・貢献と、修士論文研究を対象に評価します。

---

**マネジリアル・エコノミクス特殊講義 3 単位(1 学期)**

**マネジリアル・エコノミクス演習 3 単位(2 学期)**

教授 林 高樹

---

**授業科目の内容:**

経営上の問題・課題に対して、統計的方法論を中心に定量的手法を活用して解決を図る。適宜テーマを選び輪読とディスカッションを行う。

**授業の計画:**

各教員の指導によります。

**成績評価方法:**

授業への積極性、貢献度、アウトプットの質により評価します。